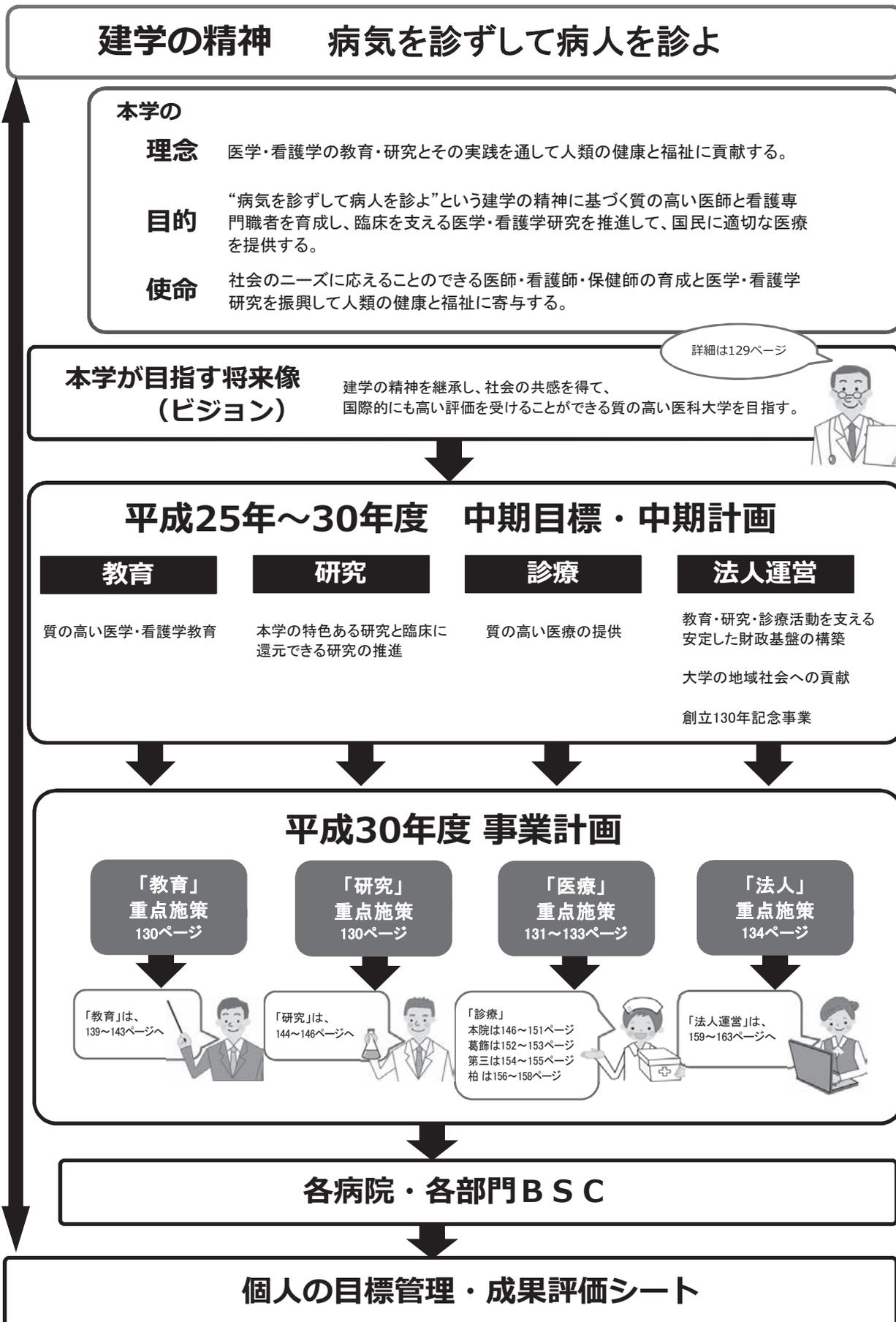


〔付〕 2. 学校法人 慈恵大学中期目標・中期計画・平成30年度事業計画

中期目標・中期計画・平成30年度事業計画 目次

| | |
|----------------------------------|-----|
| 目標関連マップ | 128 |
| 本学の理念・目的・使命 | 129 |
| 本学が目指す将来像（ビジョン） | 129 |
| 平成30年度 重点施策 | 130 |
| I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標 | 139 |
| 1. 教育に関する目標 | 139 |
| (1) 教育に関する目標（医学科・看護学科） | 139 |
| (2) 教育の実施体制等に関する目標 | 142 |
| (3) 自己点検・評価の充実に関する目標 | 142 |
| (4) 看護専門学校に関する目標 | 143 |
| 2. 研究に関する目標 | 144 |
| (1) 研究水準および研究成果に関する目標 | 144 |
| (2) 研究実施体制等の整備に関する目標 | 145 |
| (3) 総合医科学研究センターに関する目標 | 146 |
| (4) その他 | 146 |
| 3. 診療に関する目標 | 146 |
| ●本院に関する目標 | 146 |
| ●葛飾医療センターに関する目標 | 152 |
| ●第三病院に関する目標 | 154 |
| ●柏病院に関する目標 | 156 |
| II 法人運営の改善および効率化に関する目標 | 159 |
| 1. 運営体制の改善に関する目標 | 159 |
| 2. 人材確保・育成・活用に関する目標 | 159 |
| 3. 事務の効率化・合理化に関する目標 | 160 |
| III 財務の改善に関する目標 | 160 |
| 1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標 | 160 |
| 2. 経費の抑制に関する目標 | 161 |
| 3. 資産の運用管理の改善に関する目標 | 162 |
| IV その他事業運営に関する重要目標 | 162 |
| 1. 本院新外来棟建築に関する目標 | 162 |
| 2. 大学マスタープランの策定に関する目標 | 162 |
| 3. 創立130年記念事業に関する目標 | 162 |
| 4. 大規模災害時の対応に関する目標 | 163 |
| 5. 葛飾医療センター開設後の評価に関する目標 | 163 |



[本学の理念・目的・使命]

- 理念：医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。
- 目的：“病気を診ずして病人を診よ”という建学の精神に基づく質の高い医師と看護専門職者を育成し、臨床を支える医学・看護学研究を推進して、国民に適切な医療を提供する。
- 使命：社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

[本学が目指す将来像（ビジョン）]

- 建学の精神を継承し、社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。

質の高い医学・看護学教育

- (1) 医学・看護学を深く理解し、豊かな人間性と倫理観を具えた全人的な医療を実践できる医師・看護師・保健師を育成するため、卒前・卒後の連携を視野に入れた特色ある教育システムを構築する。
- (2) 附属4病院の特徴を活かした多様な医師・看護師・保健師の育成プログラムを策定する。
- (3) 看護学科と看護専門学校は、協力して看護生涯学修の出発点となる基礎能力の育成に組織的に取り組む。
- (4) 大学院（博士課程と修士課程）教育の充実と改善を推進する。
- (5) 高い倫理観に基づいて研究を推進する。

本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

- (1) 本学に継承されている特色ある研究を発展させる。
- (2) 臨床研究と疫学研究を推進するシステムを構築する。
- (3) 臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- (4) 先進医療を開拓するための医学研究を推進する。

質の高い医療の提供

- (1) 社会のニーズに応えることができる質の高い医療を実践できる附属病院を目指す。
- (2) 安心で安全な医療を提供できる医療システムを構築する。
- (3) 高度で先進的な医療を開発し実践する。
- (4) 疾病の予防・健康の増進を視野に入れた取り組みを推進する。
- (5) 医師、看護師および医療職者の技術を向上させるための取り組みを行う。
- (6) 各附属病院の特色を活かして、それぞれの活性化と機能分化を図る。

教育・研究活動を支える安定した財政基盤の構築

大学の地域社会への貢献

創立130年記念事業

- (1) 130年記念事業を継続して行う。

■教育に関する重点施策

- 1) 医学科・看護学科において、社会の信頼に応えられるよう、高い責任感、使命感、倫理観を具え、教養豊かな人材を育成する。
- 2) 医学科・看護学科においてディプロマポリシーとカリキュラムの整合性を検討する。
- 3) 医学科・看護学科において、調布市大学プラットフォーム構想への参画、港区等の地域と連携した教育活動を検討する。
- 4) 医学科において、大学間協定に基づく海外との教育交流を推進する。
- 5) 医学科において、高大接続改革に対応する為に入学選抜方法を検討する。
- 6) 看護学科の課題解決能力・地域医療連携能力強化型カリキュラムの効果的な運用を推進し評価を行う。
- 7) 看護学科において、大学内外の関連部署と連携し地域連携の枠組み作りを行う。
- 8) 大学院教育におけるがんプロフェッショナル養成プランを推進する。
- 9) 看護学専攻修士課程において高度実践看護師教育課程・クリティカルケア看護専攻の申請を行う。
- 10) 看護学系専攻博士課程設置開講に向けた準備を行う。
- 11) 3看護専門学校のカリキュラム改正に向け、3校のカリキュラム内容、運営上の課題を共有のうえ、改定に取り組む。
- 12) 卒後教育を充実させ、臨床研修医・レジデントに慈恵人としての心構えを持たせる。

■研究に関する重点施策

- 1) 平成29年度に採択された私立大学研究ブランディング事業を推進し、新たに平成30年度私立大学研究ブランディング事業へ申請する。
- 2) URAの研究支援活動結果の分析により、研究アドミニストレーション部門を強化し、学外研究費を獲得する。
- 3) 学内研究費の効果を検証し、学外研究費の獲得を実現させて研究の活性化を推進する。
- 4) 附属4病院の豊富な臨床データを有機的に統合することにより、本学の臨床研究基盤整備を行う。臨床研究の専門家、生物統計家を補強して、本学の臨床研究レベルの向上を図る。

■医療に関する重点施策 本院

- 1) 医療安全・感染対策の推進
 - ・コンプライアンスを徹底し医療安全・感染対策の推進と、適正な保険診療を実践する。
- 2) 情報共有改善検討委員会答申に基づき診療情報共有改善に向けた具体策の実施、検証、改善を行う。
- 3) 地域、行政、産業医との関係強化と、断らない救急医療と医療連携の推進のための院内体制整備を図る。
- 4) EBM (Etiquette-Based Medicine) を通じて教職員の品性・資質向上を図り患者さん志向の医療を提供する。
- 5) ゆるやかなセンター化構想を推進する。
- 6) 国立がん研究センターとの緊密な連携のもと遺伝診療部を設置し、がんゲノム医療連携病院の指定を目指す。
- 7) チーム医療を実践するための人材を育成し、職種間の協力体制を強化する。

■医療に関する重点施策 葛飾医療センター

- 1) 医療安全・感染対策の推進
 - ・医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。
- 2) 総合内科体制の再構築
 - ・総合内科体制の再構築に向け、関連部署との協議を推進する。
- 3) 救急体制の充実
 - ・断らない救急医療体制を強化する。
- 4) がん医療の推進
 - ・がん診療に関する専門職の育成、ならびにがん診療体制の維持・向上を図る。
 - ・乳がん看護ならびに緩和ケアの認定看護師により質的向上を図る。
- 5) 患者サービスの推進
 - ・患者のニーズに適応したサービスを提供し情報発信する。
 - ・全教職員に対し病院コンセプトを継続的に周知する。
- 6) 地域貢献（医療連携の推進）
 - ・各病棟に退院調整に係わる看護師を継続的に配置し、退院調整に関する精度を向上させる。
 - ・関連する訪問看護ステーションとの定期的な意見交換のための会を継続開催し、関係を深め患者の退院支援につなげる。
 - ・訪問看護ステーションとの相互研修を継続する。
 - ・小児領域の在宅調整について更なる精度の向上を図る。
- 7) 災害拠点病院としての地域支援と連携強化
 - ・葛飾区との総合防災訓練ならびに地元自治会との合同防災訓練に参加し、地域支援・連携体制を強化する。
- 8) 職種間の協力体制の構築
 - ・チーム医療を実践するための人材育成を推進する。
 - ・透析看護ならびに集中ケアの認定看護師を継続配置し、チーム医療の質的向上を図る。
 - ・救急認定看護師、重症ケア認定看護師を配置したチーム医療により、急性期におけるケアの質的向上を図る。
- 9) 適正な収支構造の確立
 - ・每期設定される医療収支・医業利益目標を達成する。
 - ・医薬品の適正使用ならびに後発医薬品の採用を推進する。
 - ・SPD委託会社の附属4病院統一化に伴う共同購入の推進およびベンチマークなどにより医療経費を縮減する。

■医療に関する重点施策 第三病院

1) 医療安全・感染対策の推進

- ・医療安全、感染対策を検証し、有効で効率的な取り組みを構築、実践する。

2) 救急医療体制・災害時拠点病院の充実

- ・救急応需の連絡体制を点検し、搬送連絡時間短縮策を講じる。特に夜間・休日体制の強化を図る。
- ・救急隊との連携を密に、断らない救急応需の体制を整備する。
- ・BCP（事業継続計画）を再整備し、災害時拠点病院としての機能を果たす。

3) がん診療の推進

- ・国指定の「地域がん診療連携拠点病院」認定に向け、北多摩南部医療圏における拠点病院との連携・相乗効果を創出する。また、拠点教育プロジェクトを推進する。

4) 認知症疾患医療センターの強化

- ・認知症に係る相談体制をより強化し、狛江市の認知症初期集中支援チームをサポートする。

5) 地域医療連携の推進

- ・新規開業医療機関や健診施設を訪問、web予約の充実を図り、初診紹介患者増加を目的とした地域医療連携拡大を図る。
- ・地域包括ケアシステム構築に向けて、行政と連携しながら地域医療に貢献する。

6) 新しい専門医制度に対応した総合診療研修センターの整備

- ・センター機能の充実を図る。総合診療専門医採用に向けた説明会の実施、採用活動を行う。

7) 共感と思いやりに基づく医療（Empathy Based Medicine）

- ・教職員の患者への声掛け等、実践力および対応力向上を目指して、セミナー開催、スローガンを掲げるなど具体策を検討する。

8) 適正な収支構造の確立

- ・年度目標としている医療収支・医業利益目標を達成する。
- ・医薬品の適正使用ならびに後発医薬品の採用を推進する。
- ・医薬品や医療材料の適正な在庫管理による医療経費の削減に努める。

9) 新病院の基本計画・基本構想決定

- ・病院全体への周知を図り、新病院建築への機運を高める。

■医療に関する重点施策 柏病院

1) 医療安全・感染対策の推進

- ・医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。

2) 救急体制の充実

- ・救命救急センターとしての機能を強化し、地域医療に貢献する。
- ・ICUの充実を図るため、救急科主体の運営を構築する。

3) がん診療の推進

- ・がん診療連携拠点病院として必要な質の高い診療を実践する。
- ・国立がん研究センター東病院との連携を強化し、がん診療、研究、人材育成の充実を図る。

4) 周産期医療の整備と推進

- ・地域ニーズに対応するための高度専門的な「周産期医療」が提供できる診療体制を構築し、分娩件数の増加を図る。

5) 患者サービスの推進

- ・待ち時間短縮のため、外来での対応プロセスを改善し分散会計を導入する。
- ・医療者のモラルと接遇マナーの向上を図る。

6) 地域貢献（医療連携の推進）

- ・地域医療ニーズに応え、地域包括医療を推進するよう医療連携および診療体制の改善充実を図るため、PFMシステムを更に推進する。
- ・災害拠点病院として行政や医療機関と連携し地域を支援する。

7) 職種間の協力体制の構築

- ・当院の強みであるチーム医療を推進するため、部署間、職種間連携の強化を図る。

8) 適正な保険診療・収支構造の確立

- ・每期設定される医業利益目標を達成する。
- ・適正な保険診療を推進するため、保険診療の基本ルールを教育・研修により周知・徹底する。
- ・医薬品の適正使用、ならびに後発医薬品の採用を推進する。
- ・共同購入の推進、購入価格の見直し、不働在庫の削減、配置在庫の適正化を行い経費削減を図る。

9) 手術室の効率的運用

- ・安全を確保しつつ外来手術センターの有効利用を推進する。

10) 施設、設備の整備・拡充

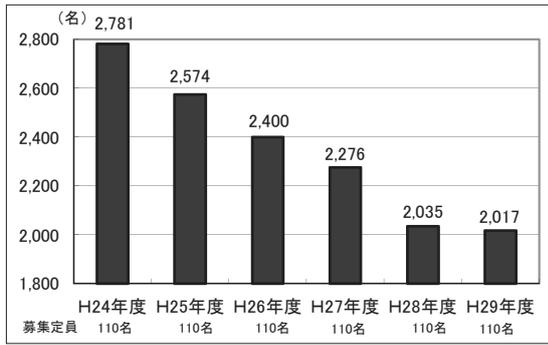
- ・効率的な病床運用、患者アメニティの向上、室料差額床の増床など、病棟の改修計画を策定する。
- ・画像診断機器の効率的な運用を推進する。

■法人運営に関する重点施策

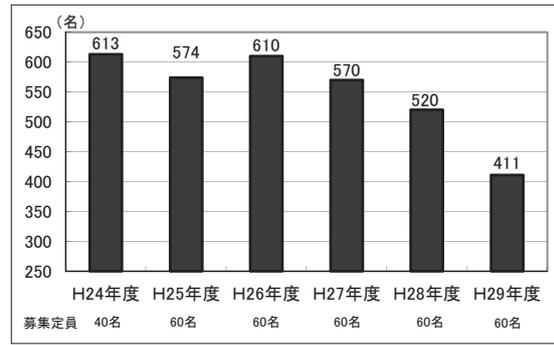
- 1) 内部統制の強化
 - ・法人・大学・病院のガバナンス体制の強化を目指し、寄附行為等を検証し必要に応じ、関連規程の改定を行う。
- 2) 西新橋キャンパス再整備計画の進行に伴う大規模災害対策を確立する。
- 3) 安定した財務基盤の構築
 - ・法人における収支構造の点検を行う。
 - ・機関別の事業計画に基づく長期資金計画を策定する。
 - ・医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤を維持する。
- 4) 経営の質の改善
 - ・コストマネジメント・プロジェクトで取り組んでいる計画を実行し、附属4病院における医療材料の物流を効率的に運用する。
- 5) 新外来棟の施工を遅延なく進める。
- 6) 平成31年1月健診センター開院を目指し具体的な移転スケジュールを策定し実現させる。
- 7) 中央棟・E棟その他の改修のための基本設計および詳細設計計画を策定し詳細設計を進める。
- 8) 大学本館建替計画に着手する。
- 9) 人材育成制度を強化する。
- 10) 教職員の満足度を向上させる。
- 11) 業務改善を推進する。
- 12) 労務管理の適正化
 - ・各部署の現状を検証し、適切な運用をめざす。
- 13) 戦略的広報の推進
 - ・本学の事業計画、先進的医療及び研究内容等を重要ステイクホルダーに合せ、戦略的な情報発信を展開する。

■ 教育に関する重点施策：参考指標

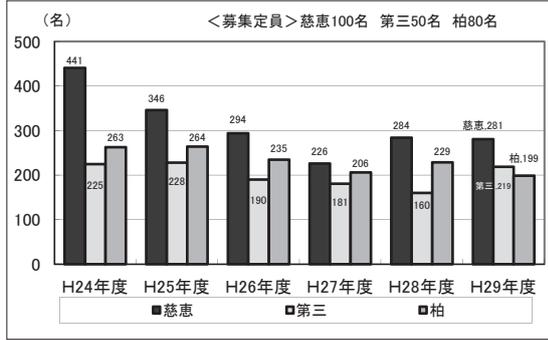
医学科志願者数（実施年度）



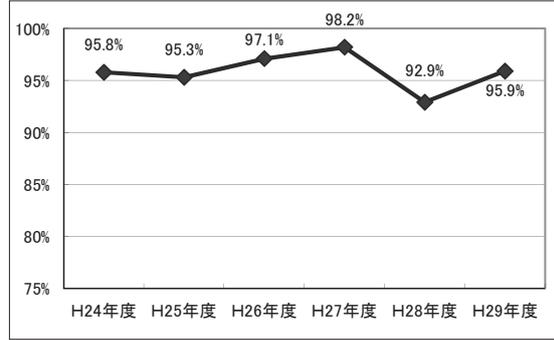
看護学科志願者数（実施年度）



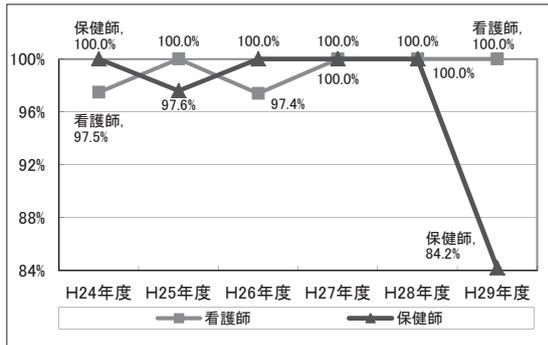
看護専門学校志願者数（実施年度）



医師国家試験合格率（医学科）（実施年度）

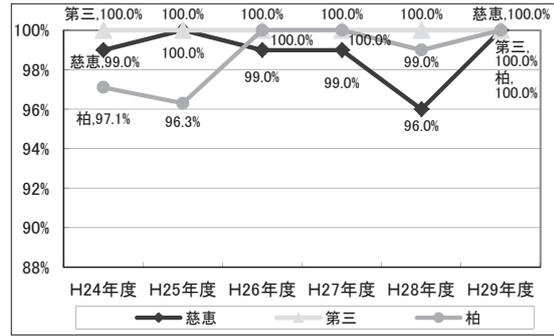


看護師・保健師国家試験合格率（看護学科）（実施年度）



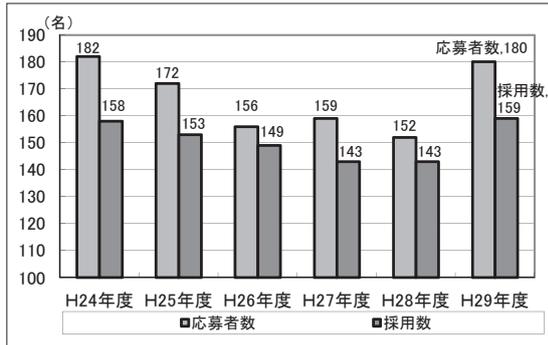
※H29年度 国家試験全国平均 90.1%

看護師国家試験合格率（看護専門学校）（実施年度）



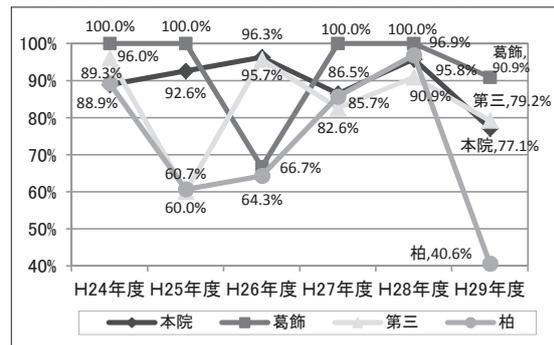
※H29年度 国家試験全国平均 看護師91.0% 保健師81.4%

レジデント応募者数、採用数

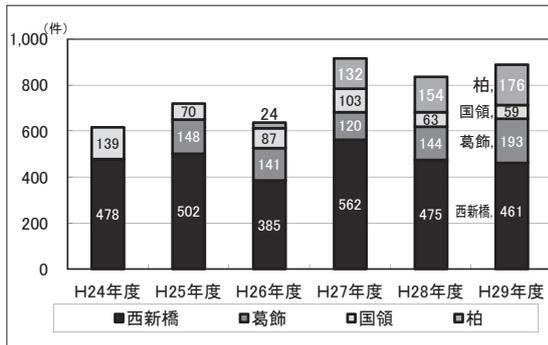


※H29年度 国家試験全国平均 91.0%

医師臨床研修マッチングによる定員充足率



シミュレーション教育施設利用数



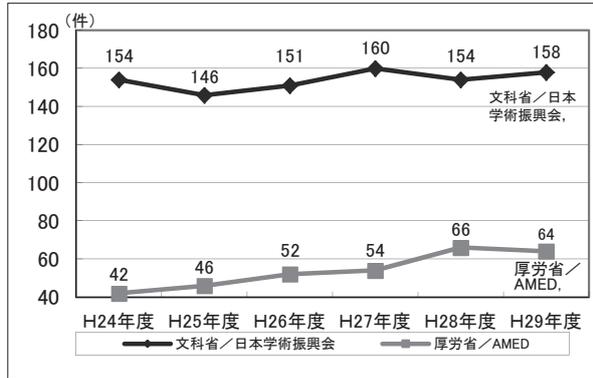
| 定員 | H24年 | H25年 | H26年 | H27年 | H28年 | H29年 |
|----|------|------|------|------|------|------|
| 本院 | 54 | 54 | 54 | 52 | 48 | 48 |
| 葛飾 | 6 | 6 | 6 | 6 | 8 | 11 |
| 第三 | 25 | 25 | 23 | 23 | 22 | 24 |
| 柏 | 28 | 28 | 28 | 28 | 32 | 32 |

※各機関の年度の定員数を表示

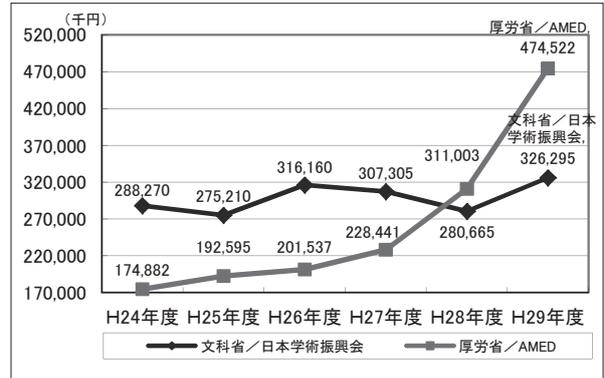
※葛飾医療センターはH25年度、柏キャンパスはH26年10月より稼働

■研究に関する重点施策：参考指標

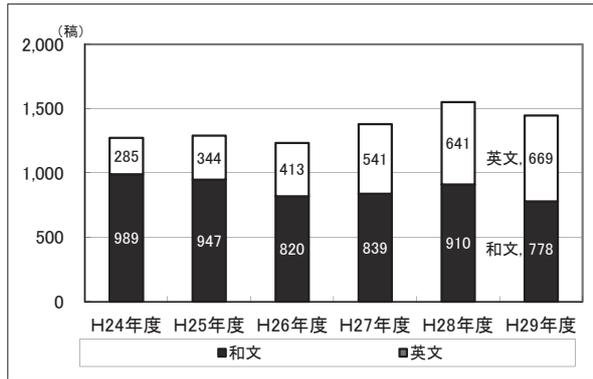
科学研究費補助金 採択件数



科学研究費補助金 採択金額

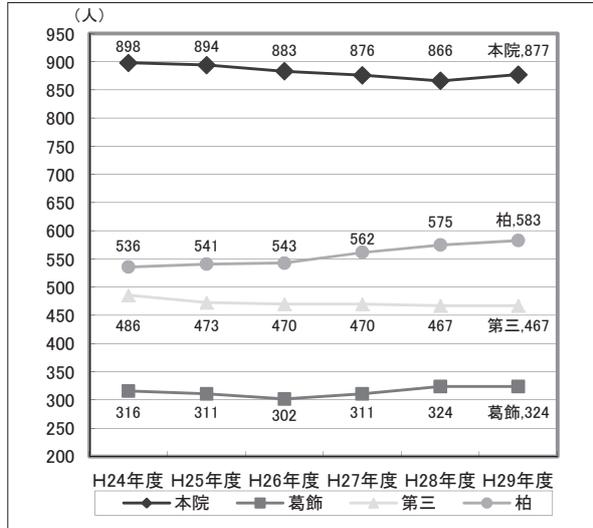


論文発表数

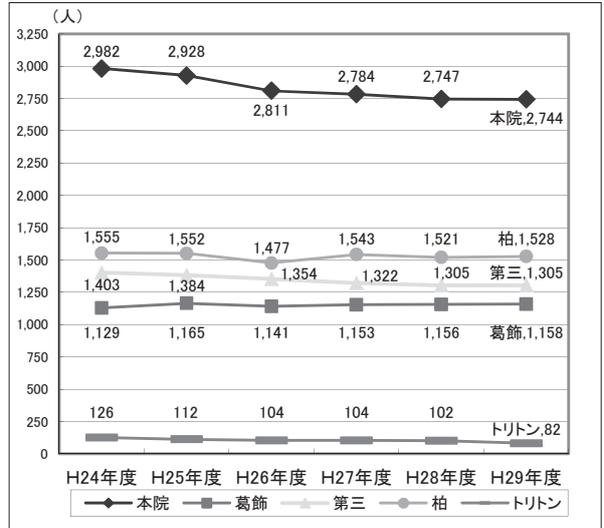


■医療に関する重点施策：参考指標

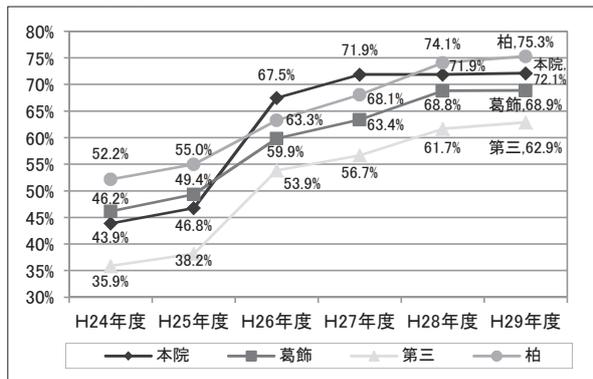
【入院】 1日平均患者数



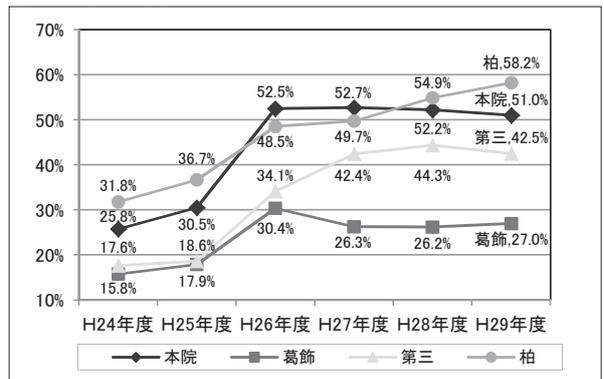
【外来】 1日平均患者数



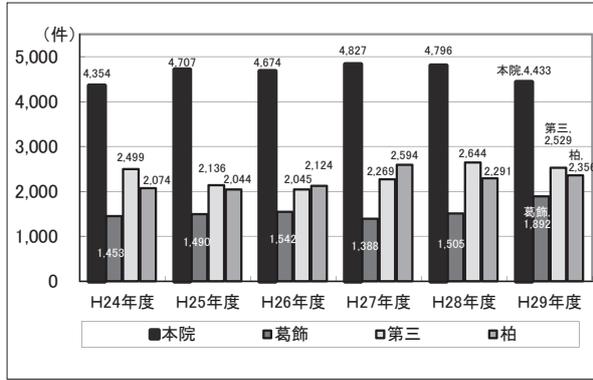
紹介率（保険法）



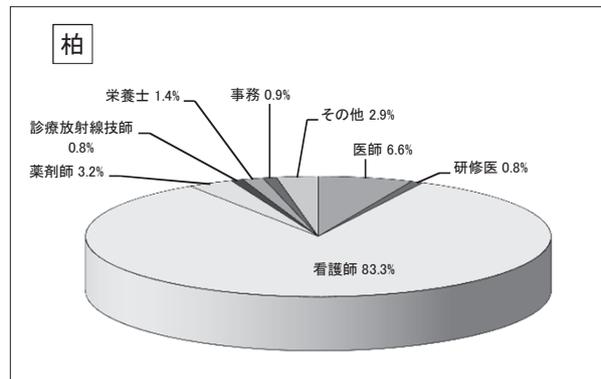
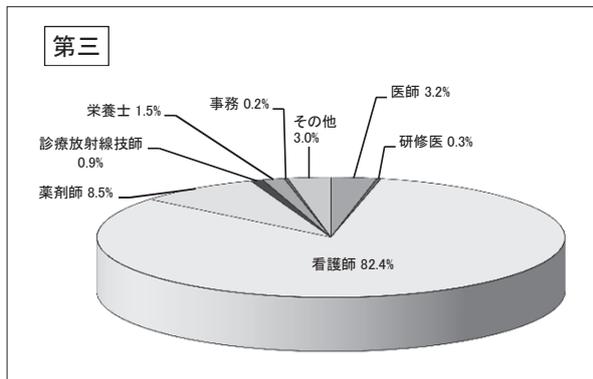
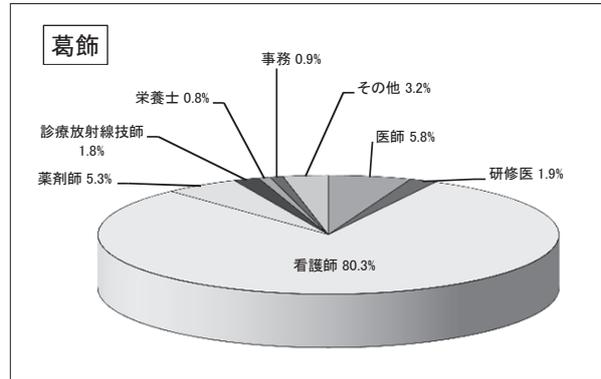
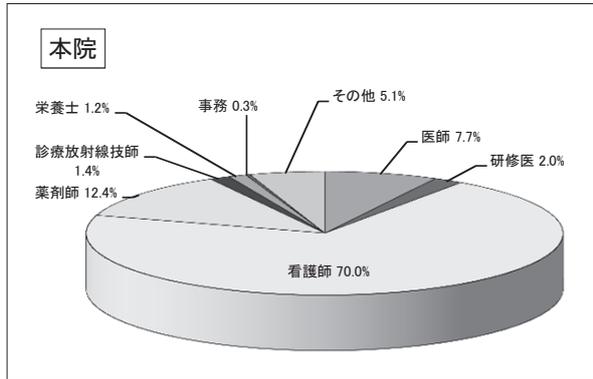
逆紹介率（保険法）



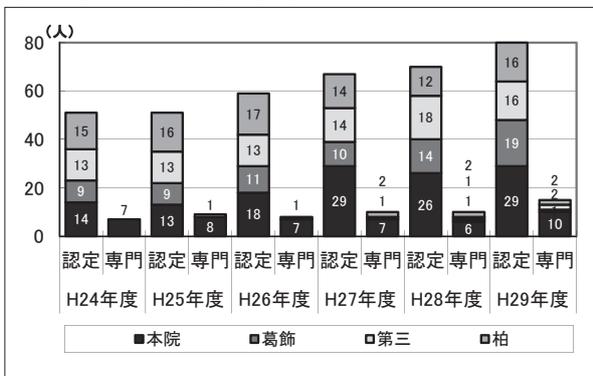
インシデント・アクシデント報告件数



インシデント・アクシデント報告職種別報告件数

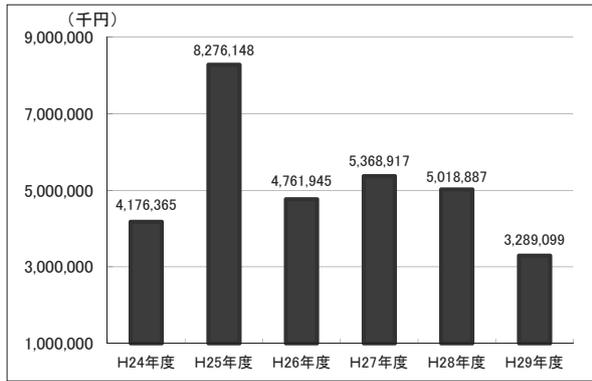


認定看護師数、専門看護師数

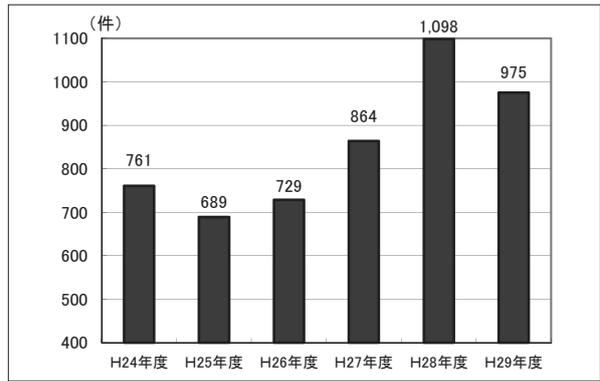


■法人運営に関する重点施策：参考指標

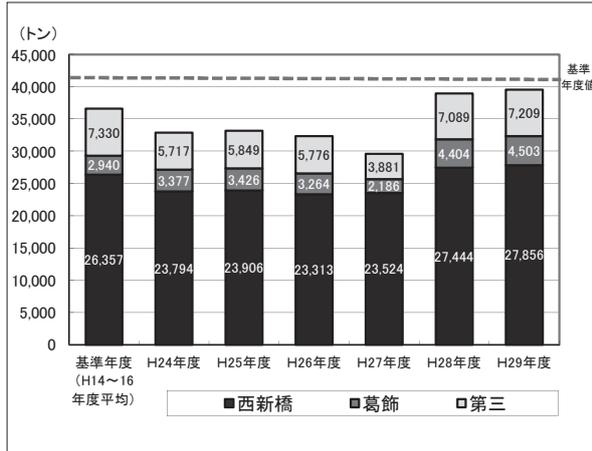
基本金組入前当年度収支差額



メディア掲出件数

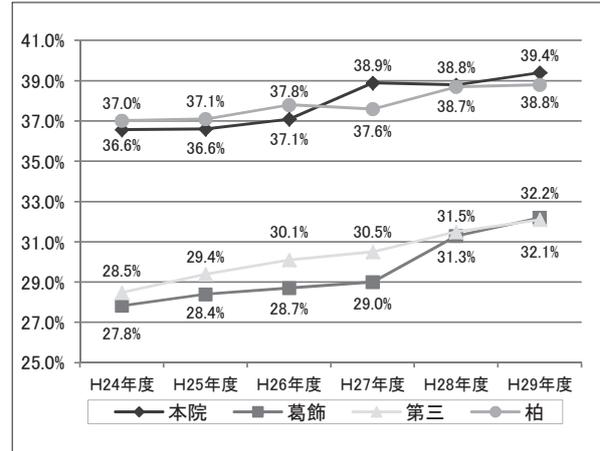


CO₂排出量 (東京都環境確保条例対応)



※H28年度はCO₂基準排出量の計算方法が変更となった

医療経費率

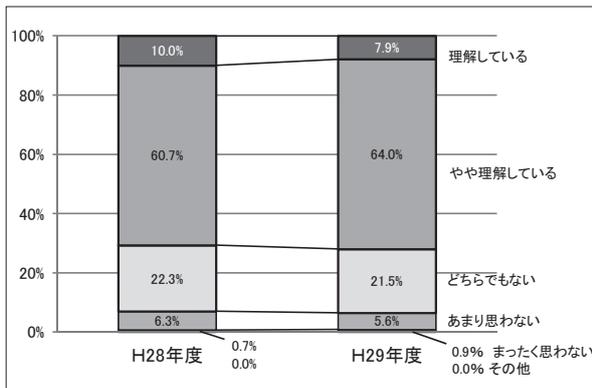


※文部科学省への届出計算書より算出
※衛生管理収入を含む

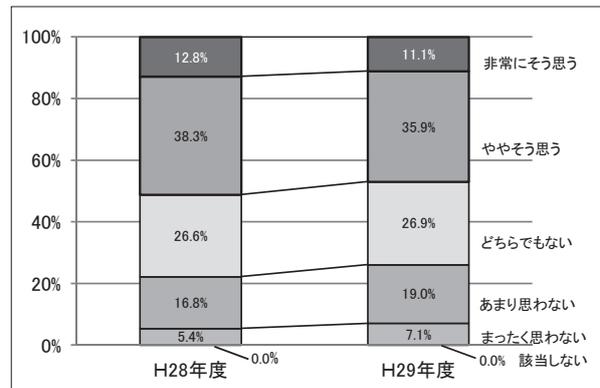
教職員アンケート結果

※回答率 H28年度 73.5% H29年度 74.2%

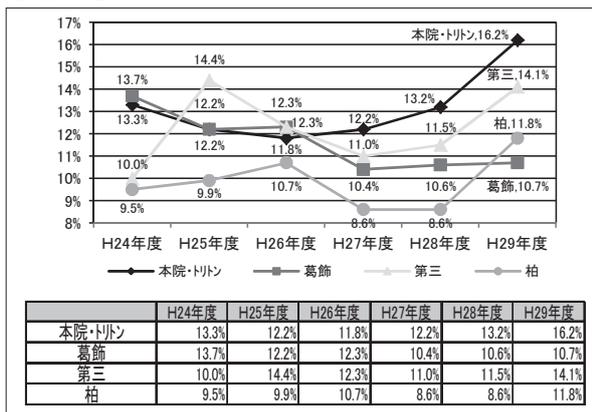
あなたは大学(病院)の理念・使命・目標などを理解していますか？



あなたは、今の部署でこれからも働きたいと思えますか？



看護師離職率



| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 |
|--|---|---|------|------------------------------|---|
| 中 期 目 標 | 指 標 (平成30年度は目標値) | 中 期 計 画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
| I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標 1. 教育に関する目標 (1) 教育に関する目標(医学科・看護学科) ○卒前教育 ・将来を見据えて教育理念・教育目標を再構築し、教育の質の向上を図る。 ・問題解決能力を涵養する。 ・高い臨床能力を涵養する。 ・自ら学ぶ態度を涵養する。 ・大学間連携を推進する。 ・厳正で適切な評価システムを構築する。 ・国際基準に適合した医師・看護師教育を実施する。 ・医師・看護師・保健師国家試験合格率の向上を図る。 ・優れた人材の獲得に向けて医学科・看護学科の入学試験方法を改善する。 ・医療人に相応しい人格と社会性を涵養する。 ・多様な進路に対応したカリキュラムを提供する。(研究医・国際貢献など) ・知性と社会性を身につけた医師・看護師を育成するための方策を策定する。 | ・教育内容公開数 H25: 1 H26: 1 H27: 1 H28: 1 H29: 1 H30: 1 ・連携大学数 H25: 11 H26: 14 H27: 21 H28: 23 H29: 25 H30: 26 ・留学生の受入数 H25: 43 H26: 44 H27: 65 H28: 102 H29: 126 H30: 100 ・臨床実習(週・時間)数 (医学科) H25: 60週 H26: 62週 H27: 75週 H28: 75週 H29: 75週 H30: 75週 (看護学科) H25: 1,260時間 H26: 1,260時間 H27: 1,260時間 H28: 1,260時間 H29: 1,260時間 H30: 1,260時間 ・医学科志願者数 H25: 2,574名 H26: 2,400名 H27: 2,276名 H28: 2,035名 H29: 2,017名 H30: 2,100名 ・看護学科志願者数 H25: 574名 H26: 610名 H27: 570名 H28: 520名 H29: 411名 H30: 500名 | ①初年次教育を改善する。 | 学事課 | 教学委員会 | (医学科) 1. アクティブラーニングの導入方法を検討する。 2. 調布市および調布市近郊大学と連携した医学教育を検討する。 |
| | | ②将来を見据えた大学の理念に沿って教育理念・教育目標を再構築する。 | 学事課 | 教学委員会 カリキュラム委員会 | (医学科) 医学科においてディプロマポリシーとカリキュラムの整合性を検討する。 |
| | | ③知識偏重から知識の展開力を重視した教育に切替える。 | 学事課 | 教学委員会 カリキュラム委員会 教育センター | (医学科) 1. 診療科と連携を図り、ログブックの内容をより実践に沿った項目へ改善する。 2. 臨床実習におけるEBM活用FDの質を向上し、指導医の知識展開指導能力を養成する。 3. ログブック、e-ポートフォリオシステムを改善する。 |
| | | ④診療参加型臨床実習を中心に臨床実習を拡充する。附属病院の教育機能を充実させる。 | 学事課 | 教学委員会 カリキュラム委員会 教育センター | (医学科) 1. 診療参加型臨床実習後の総合的臨床能力試験としてのPost-CC OSCE(卒業時OSCE)をより実践的な内容へと改善する。また、評価機構からのトライアル導入を検討し、実施に向けて取り組む。 2. 診療参加型臨床実習における包括同意書の運用を導入する。 3. 鹿児島大学との医学生交流事業を行う。 |
| | | ⑤自己学習を促進する教育手法を導入する。 | 学事課 | 教育センター 教学委員会 | (医学科) 1. e-ラーニングシステムを活用した事前学修や反転授業を促進する。 2. 学生カルテシステムを活用し臨床実習における主体的学修を推進する。 |
| | | ⑥学生の主体性および個性を尊重した教育を実施する。 | 看護学科 | 教育センター 教学委員会 | (看護学科) 新しいディプロマポリシー、各科目の到達度とe-ポートフォリオシステムを連動させ、学生が主体的に活用できるよう改良する。 |

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | 平成30年度事業計画 | | |
|--------------------------|--|--|------|---------------------------------|--|--|
| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | | |
| 中期目標 | ・医師国家試験合格率 (医学科総計) H25: 95.3% H26: 97.1% H27: 98.2% H28: 92.9% H29: 95.9% H30: 100% (医学科新卒) H25: 97.1% H26: 99.0% H27: 100% H28: 94.8% H29: 97.4% H30: 100% | ⑦学習記録と連携させた評価システムを構築する。 | 学事課 | 教育センター 教学委員会 科目横断評価プロジェクト | (医学科) e-ポートフォリオシステムを活用した臨床実習の学習記録情報の収集を行い、学生、学内外の教員にフィードバックする。 | |
| | | | 看護学科 | | | (看護学科) 科目横断試験を2年生から4年生の初めに実施し、その結果をe-ポートフォリオシステムと連動させ、学生自身がリフレクションを頻回にできる学習システムとなるように学生への周知を一層図る。 |
| | | | | | | |
| | ・看護師国家試験合格率 (看護学科) H25: 100% H26: 97.4% H27: 100% H28: 100% H29: 100% H30: 100% | ⑧医学教育と連携した外国語教育の改善を図る。 医学生・看護学生の国外留学を支援すると共に、外国の留学生を積極的に受入れる。 | 学事課 | 教学委員会 国際交流センター 運営委員会 | (医学科) コース「外国語V」(選択)を円滑に実施する。 | |
| | | | 看護学科 | | (看護学科) 英国キングスコレッジロンドンと本学の間で双方2名ずつの交換留学(海外臨床実習)を実施する。 | |
| | ・保健師国家試験合格率 (看護学科) H25: 97.6% H26: 100% H27: 100% H28: 100% H29: 84.2% H30: 100% | ⑨学生の国家試験準備への支援体制を整備する。 | 学事課 | 教育センター 教学委員会 学生委員会 | (医学科) 国家試験ガイダンスの更なる質の向上を図り、学生への情報提供を拡充する。 | |
| | | | 看護学科 | | (看護学科) 1. 学生の国家試験委員を中心として、主体的に模擬試験、補講を実施する。 2. 模擬試験の結果が芳しくない学生に、個人面談などの指導を繰り返し実施する。 3. 科目横断総合試験を低学年から効果的に活用する。 | |
| | ⑩入学試験方法を継続的に改善する。 | | 学事課 | 入試検討委員会 | (医学科) 高大接続を考慮し、大学の方針に沿って必要な改善を行う。 | |
| | | | 看護学科 | | (看護学科) アドミッション・ポリシーに基づく学生の入学を目的に、英語外部試験導入や面接方法の検討を行う。 | |
| | ⑪医師・看護師のプロフェッショナルリズムを意識した人格教育・社会教育を充実させる。 | | 学事課 | 教学委員会 カリキュラム委員会 | (医学科) 1. ディプロマポリシーの基準に沿った本学のマイルストーンをカリキュラムとの整合性を図りながら策定する。 2. 教養教育および医療倫理演習のあり方を検討する。 3. 調布市大学プラットフォームに関連する社会貢献活動を検討する。 | |
| | | | 看護学科 | | (看護学科) 1. 医学科のカリキュラム進度に合わせて、医療倫理実習を4年次前期に実施する。 2. 地域医療連携能力涵養のために学内外の関連部署が連携する枠組み作りを検討する。 | |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 | |
|--------------------------|--|--|--|--------------------------|--|--|
| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | | |
| | | ⑫臨床実習の拡充に併せ研究医養成コース・グローバルヘルスコースなどの選択の幅を広げる。 | 学事課 | カリキュラム委員会 | (医学科) コース「医学研究Ⅰ～Ⅵ」について、大学の受け入れ体制を整備し、学生へ情報提供を行い、今後の医学研究者を増加させる。 | |
| | | | 看護学科 | | (看護学科) 新カリキュラムで設定した自然科学総論、国際看護論等課題解決能力や国際的視野を涵養する科目の実施、評価を行う。 | |
| | | ⑬広報活動に努め、看護学科の受験倍率の確保を図る。 | 看護学科 | 広報課 広報委員会 | (看護学科) 本学看護学科の特徴を様々な媒体や機会を活用して広報活動し、入学を希望する多くの受験生を確保する。 | |
| | | ⑭国際基準に基づく医学教育のIR活動を充実させる。 | 教育センター | 教学委員会 カリキュラム自己点検評価委員会 | 学生の学修成果の検証とその結果に基づく提言を行う。 | |
| ○大学院教育 | <ul style="list-style-type: none"> 臨床を支える研究を推進する。 高い倫理観と判断力、基礎研究、臨床研究に優れた研究者を育成する。 研究者育成のための実効ある方策を立てる。 社会に開かれた大学院として、生涯学習の場を提供する。 大学院教育のカリキュラム評価システムを構築する。 看護実践を支える看護研究を推進する。 大学院間連携を図り、幅広い研究を可能とする。 | <ul style="list-style-type: none"> 改訂プログラム数 H25: 2件 H26: 10件 H27: 2件 H28: 1件 H29: 0件 H30: 0件 大学院生数 H25: 133名 H26: 135名 H27: 130名 H28: 144名 H29: 149名 H30: 153名 学位授与数 H25: 62名 H26: 49名 H27: 53名 H28: 69名 H29: 69名 H30: 60名 学位論文のインパクトファクター(平均) H25: 3.55 H26: 2.73 H27: 3.09 H28: 2.47 H29: 2.93 H30: 3.00 | ①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。 トランスレーショナル研究を推進する環境を整備する。 | 教育センター | 大学院委員会 | がんプロフェッショナル「関東がん専門医療人拠点」事業に3科目を新設し、基盤整備を進める。 |
| | | ②研究者として必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムの充実を図る。 | 学事課 | 大学院委員会 | (博士課程) 倫理問題に関するチャプターをe-ラーニングに導入する。 | |
| | | ③共通カリキュラムの改善を図る。教職員を対象とした公開講義を積極的に行う。 | 学事課 | 大学院委員会 | (博士課程) がんプロフェッショナル「関東がん専門医療人拠点」事業3科目のe-ラーニング授業を共通カリキュラム(選択)に導入して実施し、教職員に公開する。 | |
| | | ④社会人入学の推進を図る。 | 学事課 | 大学院委員会 | (博士課程) がんプロフェッショナル「関東がん専門医療人拠点」の広報を充実させる。 | |
| | | ⑤看護学の大学院における「教育・研究」を改善し質を高める。 | 看護学専攻 修士課程 | 大学院委員会 | 1. 看護学専攻博士課程設置開講に向けた準備を行う。 2. 看護学専攻修士課程において高度実践看護師教育課程・クリティカルケア看護専攻の申請を行う。 | |

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成30年度事業計画

| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
|----------------------|--|---|----------|-------------------------------|--|
| ○卒業教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・レジデント応募者数 H25:172名 H26:156名 H27:159名 H28:152名 H29:180名 H30:200名 ・レジデント採用数 H25:153名 H26:149名 H27:143名 H28:143名 H29:159名 H30:150名 ・医師臨床研修マッチングにおける定員充足率 H25:78% H26:86% H27:86% H28:95% H29:69% H30:80% | ①初期臨床研修プログラムならびに指導体制の更なる充実を図り学内外の医学生に公開する。 | 教員・医師人事室 | 教育センター | <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研修医にメンター制度を導入する。 2. 臨床研修医向けに定期的な勉強会を開催する。 3. オリエンテーション・FDの内容を充実させる。 4. 指導医講習会を開催し、附属4病院より臨床研修指導教員合計40名の受講を目指す。 |
| | | ②専門修得コース(レジデント)における各科プログラムの更なる充実を図り学内外の研修医等に公開する。 | 教員・医師人事室 | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各領域別の専攻医研修プログラムをホームページに掲載し優秀な専攻医を採用する。 2. 本学学生を対象に新専攻医制度(専攻医採用)に関する説明会を開催する。 |
| | | ③看護における臨床技能を高めるための研修を実施する。 | 教育センター | 慈恵看護あり方会議 | 認定看護管理者教育課程ファーストレベルの開講の準備を行う。 |
| (2) 教育の実施体制等に関する目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・e-ラーニング実施数 H25:279件 H26:335件 H27:359件 H28:382件 H29:411件 H30:415件 ・シミュレーション教育施設利用数 H25:659回 H26:637回 H27:917回 H28:836回 H29:889回 H30:890回 ・医学教育セミナーの開催数 H25:1回 H26:3回 H27:2回 H28:4回 H29:0回 H30:4回 | ①臨床実習を行う学外の協力病院におけるFDを導入する。 | 学事課 | 教学委員会 臨床実習統括委員会 公開講座委員会 | (学事課) <ol style="list-style-type: none"> 1. 協力病院と学生から診療参加型臨床実習のフィードバックをもらい、分析および評価を行う。 2. 臨床実習に伴う本学、学外協力病院とのFD参加交流の体制を構築する。 |
| | | ②教員評価制度の運用に基づく体系的人事制度を構築する。 | 看護学科 | | (看護学科) 学外の実習施設からも参加できるよう臨床実習教育連絡会を開催し、活発な情報交換を行う。 |
| | | | 教育センター | | 学外教育病院指導医の出張FDを実施する。 |
| (3) 自己点検・評価の充実に関する目標 | | ①自己点検・評価を公表し、運営(中期目標・計画、支援、設備整備等)に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。 | 大学事務部 | 大学自己点検・評価委員会 | (学部・研究科) 平成30年度よりスタートする第3期認証評価システムの情報を収集し、次期受審に備える。 |
| | | ②平成28年度に大学基準協会の認証評価を受審する。 | 大学事務部 | 大学自己点検・評価委員会 | (博士課程) 大学基準協会の指摘事項を確認し、改善する。 |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 |
|---|--|-----------------------------|--------|-----------|---|
| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
| (4) 看護専門学校に関する目標 ・看護専門学校の教育の向上を図る。 ・優秀な学生を確保する。 | ・看護師国家試験合格率 (慈恵) H25:100% H26:99.0% H27:99.0% (既卒1名含) H28:96.0% (既卒1名含) H29:100% (既卒2名含) H30:100% (第三) H25:100% H26:100% H27:100% H28:100% H29:100% H30:100% (柏) H25:96.3% (既卒1名含) H26:100% (既卒3名含) H27:100% H28:99.0% H29:100% H30:100% (3校平均) H25:98.7% H26:99.6% H27:99.6% H28:98.3% H29:100% H30:100% ・附属4病院への就職者率 (慈恵) H25:97.8% H26:92.0% H27:99.0% H28:86.5% H29:92.7% H30:90.0% (第三) H25:90.9% H26:91.3% H27:92.9% H28:90.4% H29:77.3% H30:90.0% (柏) H25:84.0% H26:87.0% H27:92.3% H28:100.0% H29:92.4% H30:90.0% (3校平均) H25:91.5% H26:90.1% H27:94.7% H28:92.3% H29:87.5% H30:90.0% | ①看護実践を重視した看護教育を行う。 | 看護専門学校 | | 改訂した卒業時看護技術到達基準に基づいたAレベルの技術経験率を90%以上にする。 |
| | | ②附属4病院を活用した臨地実習カリキュラムを検討する。 | 看護専門学校 | | 附属4病院の患者の特性(入院期間の短い患者)を踏まえた看護が学べるようにする。 |
| | | ③学生生活を支援する。 | 看護専門学校 | | 学習習慣が身につけていない、経済的困難など多様な課題を抱える学生の学習が継続できるよう支援する。 |
| | | ④学生確保のための活動を行う。 | 看護専門学校 | 広報課 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校訪問対象校の範囲拡大などに取り組み「専門学校」を志望する学生の確保を図る。 2. 予備校の協力を得て、確実に入学を希望する学生の取り込みを図る。 |
| | | ⑤看護教員の確保に努める。 | 看護専門学校 | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 附属4病院各看護部の臨床看護師から最低各一人以上の教員研修受講者を確保する。 2. 専任教員がモチベーションを維持し定着できるよう、ワークライフバランスを整える。(自己研鑽、休暇などの機会を主体的に計画し実践できるようにする) |

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成30年度事業計画

| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | 平成30年度事業計画 |
|--|--|---|--|--|---|
| 2. 研究に関する目標 (1) 研究水準および研究成果に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> 国際的な視野に立った先進的研究を推進する。 質の高い基礎医学および臨床医学研究を振興する。 外部競争的資金の獲得を支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省科学研究費補助金 採択件数 H25:146件 H26:151件 H27:160件 H28:154件 H29:158件 H30:168件 ・論文発表数 H25:1,291稿 H26:1,233稿 H27:1,380稿 H28:1,551稿 H29:1,447稿 | ① 本学にとって特色ある研究領域を識別し、重点的に推進していく。 | 研究支援課 | 大学院委員会 大型プロジェクト対策委員会 | 本学の公的研究費獲得状況と研究アドミニストレーション部門の実績を分析し、改善することで研究費の獲得を推進する。 |
| | | | 学事課 | | 医学研究科博士課程における高度な研究を推進することを目的とした「研究推進費」、基礎医学、社会医学および臨床医学における優れた研究者を養成することを目的とした「大学院研究助成金」を専用ホームページやイントラネットを活用し、積極的に広報し、大学院委員会を中心に優れた研究者や取組みを厳選して採択する。 |
| | | | 学事課 | 学長諮問会議 総合診療内科 アウトリーチ活動推進委員会 | 学外共同研究費を活用し、学外の研究者と共同して行う研究会議を支援し、学問の発展に寄与する。 |
| | | | 研究支援課 | | 採択された研究ブランディング事業に関して、関連部署と連携して管理・運営を行う。また、平成30年度研究ブランディング事業に申請する。 |
| | | | 教育センター | | 1. 調布市および調布市近郊大学プラットフォームに関連する社会貢献活動を検討する。 2. 港区等と連携したアウトリーチ活動を4回行う。 |
| | | | 臨床検査 医学講座・ 病理学講座・ 放射線 医学講座 | 研究支援課 | 個人情報保護・医療安全を保証し、研究に必要な臨床情報の抽出・収集・提供を行い、研究を促進するための大学研究ハブ機構の形成を行う。 |
| | | 臨床検査 医学講座 | | 研究予算(科研費・AMED)および中心となる研究要員を確保し、臨床検査データ、画像データの新規収集・統合システムを試す。 | |
| | | ③ 学内研究費を活用し、それぞれの研究層に応じた競争的資金の獲得を支援する。 | 研究支援課 | 学長諮問会議 研究奨励費委員会 大学院委員会 | 学内研究費採択者による競争的研究費申請状況および採択状況の分析を行い学内研究費の効果について検証する。 |
| | | | 学事課 | | 基礎医学と臨床医学のコラボレートによる新たな研究の展開と技術開発に関する研究シーズを探索するための研究費である「萌芽的共同研究推進費」を大学院委員会にて支給決定するとともに、その後の外部競争的研究資金の獲得に関する追跡調査を行い、本研究推進費が有効に活用されるよう、大学院委員会を中心に分析作業を行う。 |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 | |
|--------------------------|---|---|---|--------------------------------------|--------------------------|---|
| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | | |
| (2) 研究実施体制等の整備に関する目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・透明性・公正性・中立性の高い研究を推進する。 ・研究環境を整備する。 ・先進的研究実施体制を構築する。 ・寄付講座制度を活用する。 ・医師の研究時間を確保するために効率的な人員配置をする。 ・学内横断的研究プロジェクトを推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大型プロジェクト研究事業の採択数 H25：1件 H26：0件 H27：0件 H28：2件 H29：1件 H30：1件 ・寄付講座設置数 H25：2講座 H26：2講座 H27：2講座 H28：0講座 H29：1講座 H30：1講座 | ①研究者としての高い倫理観を涵養するために必要な体制整備と本体制による対策の実施、状況のモニタリングを行う。 | 研究支援課 | 研究倫理推進センター 研究適正化特別委員会 | 研究倫理推進センター及び教育研究助成委員会による、「公的研究費及び研究不正に関する倫理教育FD」を開催する。また、研究者を対象として意識調査を実施することで現状を把握し、体制整備を推進する。 |
| | | | ②研究アドミニストレーション部門を設置し、研究支援の強化を図る。 | 監査室 | | 研究活動と研究費使用が適正に行われるように、点検と提案を行う。 |
| | | | ③国際競争力のある研究を奨励、支援する。 | 学術情報センター | | 剽窃・盗用チェックシステムの活用を促すことにより、学内における研究倫理に対する意識づけを図る。 |
| | | | ④学内学外の研究連携を促進する。 | 研究支援課 | 研究支援課 | 研究アドミニストレーション部門により、本学における研究力の現状を分析して、研究支援に関する戦略を計画する。 |
| | | | | 学術情報センター | | 論文執筆のための講習会を実施して国際誌への投稿を推進する。論文数の集計により本学の研究活動の特徴を分析する。 |
| | | | | 学事課 | 大学院委員会 | 「萌芽的共同研究推進費」、「学外共同研究費」を学内研究者へ広く周知するため、専用ホームページやイントラネットを活用し、積極的に広報する。 |
| | | | | 研究支援課 | | LINK-Jに関する広報活動および施設の有効活用を通じた産学連携を推進する。 |
| | | | | 看護学科 | | 1. 教員の科研費申請を支援する。 2. 領域横断的に看護学科として取り組む研究課題を明確化し、研究費申請へとつなげる。 |
| | 看護専門学校 | | 学内外の関係者と連携し教育活動について研究する。 | | | |
| | 看護部 | | 専門看護師・認定看護師・大学院生・看護師・看護学生の研究フィールドとしての受入れと研究過程の支援を行う。 | | | |
| | 看護学専攻修士課程 | | 1. 看護研究学習会を慈恵看護研究会と組織的に企画し開催する。 2. 看護学専攻修士課程における一部の授業科目を公開講義とする。 | | | |
| | ⑤臨床研究支援体制を強化し、臨床研究の活性化を支援する。 | 臨床研究支援センター | | 平成30年度にはSS-MIXを用いた複数の疾患レジストリーの構築を行う。 | | |
| | ⑥寄付講座を積極的に活用し、研究の活性化を支援する。 | 研究支援課 | | 継続して寄付講座を積極的に活用し、研究の活性化を支援する。 | | |

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成30年度事業計画

| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | 平成30年度事業計画 |
|---|---|--|----------------------|---|--|
| (3) 総合医科学研究センターに関する目標 ・各研究所・研究室の活動を定期的に点検・評価し、特色ある研究を推進する。 ・競争的研究資金の獲得を目指す。 | ・総合医科学研究センター研究成果報告会開催数 H25: 0回 H26: 1回 H27: 1回 H28: 2回 H29: 2回 H30: 1回 ・学内共同研究数 H25: 35件 H26: 42件 H27: 35件 H28: 33件 H29: 128件 H30: 50件 | ①各部署(研究所・研究部)の活動を点検・評価し、必要に応じて組織の再編を検討していく。 | 総合医科学研究センター 研究支援課 | | 自己評価報告書のフィードバックを基に平成30年度よりの3カ年の到達目標を設置する。 |
| | | ②総合医科学研究センター研究部門が主導し、学内の各講座と連携しながら特徴ある研究を推進する。 | 総合医科学研究センター 研究支援課 | 総合医科学研究センター(研究部門) | 将来予想される大型の学外研究費の獲得準備をすすめる。 |
| | | ③総合医科学研究センター研究支援部門として、大学が戦略的に推進していく研究領域の支援を強化する。 | 総合医科学研究センター 研究支援課 | 総合医科学研究センター(支援部門) | 引き続き学内のゲノム医療、再生医療等を支援するためGMP対応細胞・ベクター産生施設、基盤研究施設(分子遺伝)の充実を図る。 |
| (4) その他 ・医学・看護に関する情報を公開し社会に貢献する。 | ・公開講座開催数(一般市民および地域医療者を対象) H25: 37回 H26: 36回 H27: 32回 H28: 25回 H29: 25回 H30: 25回 | 知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。 | 教育センター | 公開講座推進委員会 | 医学部、附属4病院で大学主催公開講座を、25回以上開催する。 |
| 3. 診療に関する目標 ●本院に関する目標 (1) 医療の質の向上を図る。 | ・先進医療の承認件数 H25: 7件 H26: 6件 H27: 8件 H28: 7件 H29: 6件 H30: 8件 DPC病院I群としての各機能評価の充実 ・効率性指数 H25: 0.00565 H26: 0.00857 H27: 0.00970 H28: 0.00955 H29: 0.01686 ・複雑性指数 H25: 0.00000 H26: 0.00000 H27: 0.00010 H28: 0.00000 H29: 0.00058 H30: 0.01544 ・カバー率指数 H25: 0.00476 H26: 0.00932 H27: 0.00968 H28: 0.00963 H29: 0.01869 | ①特定機能病院としての機能を充実させる。 | 管理課 | | 1. 特定機能病院新承認要件項目を中心に体制整備を行い、安定運営を図る。 2. 先進医療、再生医療など、関係法令に対応し、新規申請・実施に向けた診療科への支援を行う。 |
| ②がん診療連携拠点病院としての機能を充実させる。 | | 管理課 | | 質の高い医療を提供するため、多職種、診療科の専門性を活かしたチーム医療体制の強化を図る。また、医療の高度化、複雑化が進む中で安全な医療を提供するため、化学療法における副作用や合併症の予防、軽減を目指し、情報共有および検討を行う。さらに、がんゲノム医療連携病院として、遺伝診療部の体制を整備する。 | |
| ③人材育成(スキルアップ)を行う。 | | 教員・医師人事室 | | 1. 医療安全カンファレンス、CPCによる症例検討を推進する。 2. 鏡視下手術トレーニングコースSTEP1,2の試験とSTEP3の技術認定を実施する。 | |
| ④看護専門職を充実させる。 | | 看護部 | 病院運営会議 | 1. 放射線看護認定看護師が修学を終了したため、次年度の認定試験支援と配置を放射線治療外来とし、専門性の向上を図る。 2. 透析看護認定看護師1名を血液浄化部に配置し専門性を活かす。 3. 糖尿病療養指導士、がん相談員を増員させる。 | |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 |
|--------------------------|--|--|--|-----------------------------|---|
| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・救急医療指数 H25: 0.00226 H26: 0.00464 H27: 0.00473 H28: 0.00459 H29: 0.00737 ・地域医療指数 H25: 0.00189 H26: 0.00459 H27: 0.00504 H28: 0.00497 H29: 0.00914 ・DPC地域医療指数・ 体制評価指数 H25: 9.1P H26: 9.6P H27: 9.6P H28: 8.85P H29: 5.47P H30: 8.0P がん診療連携拠点病院 ・5大がん+前立腺がん のパス運用数 H25: 51件 H26: 87件 H27: 57件 H28: 77件 H29: 63件 H30: 80件 ・公開講座数 H25: 3回 H26: 3回 H27: 2回 H28: 2回 H29: 2回 H30: 2回 ・研修医のCPC出席率 H25: 95.8% H26: 97.9% H27: 97.5% H28: 96.9% H29: 96.2% H30: 100% ・新規認定看護師資格取得者数 H25: 0名 H26: 5名 H27: 9名 H28: 4名 H29: 0名 H30: 2名 | <p>⑤チーム医療を強化・推進する。</p> <p>⑥救命救急体制の強化を図る。</p> | <p>本院</p> <p>医療安全管理部</p> <p>薬剤部</p> <p>業務課</p> | <p>病院運営会議</p> <p>救急部委員会</p> | <p>各診療部の体制を堅持しながら、診療部間の専門性を活かし、高度、救急医療に対応するため、ゆるやかなセンター化構想を推進する。</p> <p>TeamSTEPPSを継続して実施し、研修内容の充実と強化を図る。</p> <p>病棟薬剤業務の充実を図る。</p> <p>救急隊との情報交換会を開催する等、連携を密にして、搬送件数増加に取り組む。</p> |
| (2) 先進(高度)医療を開発し、施行する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・先進医療新規認定数 H25: 0件 H26: 1件 H27: 2件 H28: 1件 H29: 0件 H30: 2件 | 特定機能病院の要件を満たす。 | 管理課 | 各診療科 先進医療委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療科からの相談に対応できるよう常に最新の情報を収集し支援を行う。 2. 医療の質・技術向上に取り組み、患者ニーズに対応した先進医療を提供する。 3. 他施設共同試験への参画に対する事務的支援を行う。 |

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成30年度事業計画

| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | 平成30年度事業計画 |
|-----------------------------|--|--|---------|-----------|---|
| (3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 院内感染防止のためのラウンド数 H25: 391 H26: 309 H27: 309 H28: 435 H29: 502 H30: 500 院内感染防止のためのカンファレンス数 H25: 63件 H26: 78件 H27: 91件 H28: 100件 H29: 123件 H30: 120件 | 医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。 | 医療安全管理部 | | <ol style="list-style-type: none"> 非常勤医師を含めた医療安全および感染対策研修会の未受講率を減少させる。 CVC(中心静脈カテーテル)挿入認定制度の定着によるCVC挿入認定医師の増加を図る。 電子カルテ導入後も検査結果未確認防止のための方策を継続して検討する。 教職員に対する特定機能病院新承認要件(医療安全に関する項目)の内容周知を強化する。 病棟ICT活動の推進により、「アウトブレイク3」事例の減少を目指す。 耐性菌対策として、環境整備を強化実施する。 |
| (4) 適正な保険診療の徹底 | | 「教育・研修改革」、「組織改革」、「意識改革」を実践する。 | 病院事務部 | | <p>4月以降、医局会訪問を開始し診療報酬改定説明、診療録記載要領の説明を行うとともに、特定共同指導指摘事項の改善状況の確認も実施し、診療科へのフィードバックを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設基準の届出についてデータ管理を徹底し、定期的に確認・検証を行うとともに、附属4病院にて情報共有を図る。 現場のスタッフへ施設基準の教育を行い、理解させる。 |
| (5) 患者・家族の満足度の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 苦情・クレーム件数(管理課) H25: 283件 H26: 315件 H27: 383件 H28: 367件 H29: 239件 H30: 300件 (患者相談室) H25: 104件 H26: 113件 H27: 147件 H28: 98件 H29: 24件 H30: 30件以下 説明と同意書の整備件数 H25: 3件 H26: 3件 H27: 5件 H28: 15件 H29: 30件 H30: 50件 | <ol style="list-style-type: none"> インフォームド・コンセントを徹底する。 教職員マナーの向上を図る。 | 病院事務部 | 病院運営会議 | <p>患者満足度調査結果を各部署へフィードバックし、改善策を検討させ実行を確認する。</p> <p>電子カルテを活用し、インフォームド・コンセント後の患者・家族の反応を明示する事を確立する。</p> <p>インフォームド・コンセントに関する相談を受け付け、各科・各病棟に情報化を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ゴードンメソッドによるコミュニケーション研修の実施によりコミュニケーション力の向上を図る。 マナーに対する意識向上のために、管理師長のあいさつ運動への参加を開始する。 <p>患者サービス向上ワーキンググループにおいて、投書・口頭申出内容を分析することで、問題箇所を洗い出し、指摘された内容が改善されたかの検証体制を稼働させる。</p> |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 |
|-------------------------------|--|--|------------------|---|--|
| 中期目標 | 指標(平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
| (6) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・紹介率(保険法) H25:46.8% H26:67.5% H27:71.9% H28:71.9% H29:72.1% H30:70.0% ・逆紹介率(保険法) H25:30.5% H26:52.5% H27:52.7% H28:52.2% H29:51.0% H30:60.0% | 紹介・受診しやすい外来システム改善と広域医療連携を構築する。 | 患者支援・医療連携センター | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院・診療所・産業医との連携体制を強化に向けた登録医制度の推進や広報活動の充実を図り、初診紹介患者数の増加を図る。 2. 2人主治医制を推進し、逆紹介と紹介患者数の増加を図る。 3. 治療と就労の両立支援体制を確立する。 4. 外来受診時より退院後療養支援を行う。 5. 学内および学外向け医療連携フォーラムを開催する。 |
| (7) 臨床研究を促進する。 | | 薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。 | 治験センター | 臨床研究支援センター 薬物・医療機器治験審査委員会 第1・第2倫理審査委員会 治験管理委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 治験および治験以外の臨床試験が適切に実施されるよう、臨床研究支援センターと連携して支援する。 2. 治験および治験以外の臨床試験に係わる病院および大学の各部門と連携し、臨床研究の申請手続きから実施、終了まで、進捗に合わせて適切に支援が提供できるよう、事務局およびCRC(臨床研究コーディネーター)の体制を整備する。 3. 附属4病院の電子カルテを活用して、SS-MIXを用いた疾患レジストリを構築する。 |
| (8) 効率的医療を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・中央棟手術室利用率(日勤帯) H25:70.6% H26:69.6% H27:70.6% H28:69.6% H29:71.0% H30:70.0% ・外来棟手術室利用率(日勤帯) H25:44.0% H26:34.6% H27:36.9% H28:35.6% H29:33.0% H30:40.0% | <ol style="list-style-type: none"> ①効率的な診療体制の構築を図る。 ②手術室の安全で効率的な運用を図る。 ③救急患者受入れの体制整備と推進を行う。 | 病院事務部 手術部 | 手術・中材・ICU運営委員会 救急部委員会 | <p>連休(ゴールデンウィーク、年末年始)対策として侵襲性の低い手術を連休前・連休前半に組み入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西新橋キャンパス再整備計画に基づき、新しい機能を兼ね備えた手術室運営を創造する。 2. 附属4病院のSPD統一により、手術室における効率的な医療材料物流システムを構築する。 3. 周術期管理センターの設立に向け、業務効率と患者満足度の向上を目指した組織体制を構築する。 4. 医療機器認証システムの導入により、複雑な手術症例に対して安全で効率的な運用を確立する。 <p>救急当番責任医師の設置により円滑な受入れを促進する。</p> |
| (9) 適正な収支構造の確立 | | 毎期設定される医業利益目標を達成する。 | 病院事務部 | | 院長・診療部長面談において、目標値・実績値差異分析を診療部へフィードバックし、問題解消への改善策の立案・実行を検証する。 |

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成30年度事業計画

| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | 平成30年度事業計画 |
|--------------------------|---|---|---|--|---|
| (10) ICTを充実し、有効活用する。 | | ICT技術を活用し、医療の効率化を推進する。 | システム課 業務課 | 情報システム統括委員会 情報システム運営会議 | 1. 新病院・新外来棟竣工に伴うシステム導入計画を立案する。 2. 附属4病院でのモバイル環境の整備を図る。 電子カルテシステム導入により算定漏れ防止および適正な請求を推進する。 |
| (11) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特殊材料費・消耗品費経費率 ・特殊材料費 H25: 9.17% H26: 9.40% H27: 9.46% H28: 8.33% H29: 8.72% H30: 8.66%以下 ・消耗品費 H25: 4.74% H26: 4.91% H27: 5.05% H28: 5.61% H29: 5.61% H30: 5.48%以下 ・原価率 H25: 92.9% H26: 95.2% H27: 96.2% H28: 95.0% H29: H30: ・後発医薬品の数量シェア H25: 24.5% H26: 41.3% H27: 76.3% H28: 79.7% H29: 81.3% H30: 85.0% | <ul style="list-style-type: none"> ①月次医療収支額を把握し活用する。 ②大学間ベンチマークを実施し、経営改善に活用する。 ③新外来棟建築計画も含めて、医療材料のSPD業務の再編を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 病院事務部 経営企画部 病院事務部 施設課 経営企画部 | <ul style="list-style-type: none"> コストマネジメント・プロジェクト | <ul style="list-style-type: none"> 病院運営会議、病院運営検討会において情報共有を図り、対処する。 病院経営の改善に活用すべく、7大学ベンチマークにおける現行指標の見直しを行う。 コストマネジメントを推進する。 SPD統一後の運営状況と材料費削減コミットの検証を行う。 |
| (12) 情報公開の条件を整備する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報公開項目数 (手術、合併症率、再入院率、再手術率等) H25: 0件 H26: 0件 H27: 0件 H28: 4件 H29: 0件 H30: 0件 | 診療情報を評価するシステムを構築する。 | 管理課 | | 定期的に臨床指標の実績公表を行う。 |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 |
|----------------------------|---|---|---------------|-----------------|--|
| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
| (13) 晴海トリトンクリニックの現状評価と将来構想 | | ①晴海トリトンクリニックの機能(組織・診療体制・健診体制)を点検・評価する。 | 晴海トリトンクリニック | 教員・医師人事室 人事課 | <ol style="list-style-type: none"> 住友系企業に依存しない収入構造の構築を行う。 幅広い企業からの人間ドック・健診の要請を柔軟に受入れる体制整備を行う。 予約制であるが断らない診療体制整備を行う。 必要な医師確保を行う。 中央区において本院が進める循環型医療連携推進の一翼を担う。 女性検診の充実を図り、中央区女性検診(子宮がん)に加えて、新たに乳がん検診にも参画する。 |
| (14) 総合健診・予防医学センターの充実 | <ul style="list-style-type: none"> がん早期発見率 (平成24年度実績ベース) H25: 0.1% H26: 0.1% H27: 0.1% H28: 0.1% H29: 0.1% H30: 0.1% メタボリックシンドローム該当者率 (平成24年度実績ベース) H25: 14% H26: 7% H27: 5% H28: 5% H29: 5% H30: 5% 女性検診での早期異常状態発見率 (平成24年度実績ベース) H25: 3.4% H26: 3.0% H27: 3.0% H28: 3.1% H29: 3.0% H30: 3.0% | ①がんを中心とした早期発見のため画像伝送システムをはじめ検査伝送システムの病院との連携強化を図る。 | 総合健診・予防医学センター | | 平成31年1月、新病院移転と同時に健診システムが更新されるため病院システムとの連携を強化していく。 |
| | | ②特定保健指導を充実させメタボリックシンドローム該当者を減らす。 | 総合健診・予防医学センター | | 契約企業との独自契約件数を増やしメタボリックシンドローム該当者を減少させるため、健診当日に保健師による指導を行い予防医学に努める。 |
| | | ③女性検診の充実化を図る。 | 総合健診・予防医学センター | | 乳腺超音波機器の導入および人員の問題など関連部署と継続検討していく。 |
| (15) 予防医学の推進 | | 健康増進に関する新たな診療体制を検討する。 | 病院事務部 | 経営企画部 | 新橋健診センターにおける冠動脈CT、OCT(眼底三次元画像解析)等の導入により心疾患の早期発見を推進する。 |

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成30年度事業計画

| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
|---|-----------------|-----------------------------|----------|------------------|--|
| ●葛飾医療センターに関する目標 (1) 医療安全・感染対策の管理体制を強化する。 | | 医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。 | 葛飾医療センター | 医療安全推進室 感染対策室 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全および感染対策研修会の未受講率ゼロを維持する。 2. CVC (中心静脈カテーテル) 挿入ライセンス制度およびCVC (中心静脈カテーテル) チェックリストの確実な運用を支援する。 3. 標準予防策の更なる浸透とPPE (防護用具) の適正使用を推進し、アウトブレイクレベル3事例の減少を目指す。 |
| (2) コンプライアンスとガバナンスを強化する。 | | 病院機能評価を受審し認定病院となる。 | 葛飾医療センター | 病院運営会議 | <p>次回の受審に向けた組織をあらためて設置し、改善事項などについて確認・検討していく。</p> |
| (3) 健全財政を維持する。 | | ①医療の効率化、透明化、標準化を推進する。 | 葛飾医療センター | 業務課 | <ol style="list-style-type: none"> 1. DPC データを活用し、当院の特性を分析する。 2. クリニカルパスの拡充と見直しを継続的に行い、医療の効率化、透明化、標準化を推進する。 3. 保険診療に関する教育・研修を強化して低査定率を維持するとともにDPCコーディングの適正化を推進する。 4. 患者満足度調査の結果などに基づき、患者ニーズに適応したサービスを提供し患者満足度の向上を図る。 |
| | | | | 病院運営会議 | <p>全教職員に対し病院コンセプトを再周知し、病院機能と患者サービスの向上を図る。</p> |
| | | | 葛飾医療センター | 管理課 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の適正使用ならびに後発医薬品の採用を推進する。 2. SPD委託会社の附属4病院統一化に伴う共同購入の推進およびベンチマークなどにより、医療経費を縮減する。 |
| | | ③データウェアハウスを活用し管理会計を強化する。 | 葛飾医療センター | 業務課 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 収益性・機能性分析を行い管理会計を強化する。 2. 患者医療圏分析などのマーケティングを継続的に実施することにより、患者や紹介医療機関の特性を把握し、集患対策につなげる。 |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 |
|--------------------------|---|---------------------------------------|----------|---------------------|--|
| 中期目標 | 指標(平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
| (4) オープン・システムを拡大する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・紹介率(保険法) H25: 49.4% H26: 59.9% H27: 63.4% H28: 68.8% H29: 68.9% H30: 70.0% ・逆紹介率(保険法) H25: 17.9% H26: 30.4% H27: 26.3% H28: 26.2% H29: 27.0% H30: 30.0% ・公開講座平均参加者数 H25: 112名 H26: 97名 H27: 156名 H28: 112名 H29: 95名 H30: 120名 | ①附属4病院、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワークを拡大する。 | 葛飾医療センター | 入退院医療連携センター | 1. 附属4病院間の連携を強化し、情報の共有化ならびに効率化を図る。 2. 連携登録医の拡大を図り、「顔の見える」医療連携を更に推進する。 |
| | | ②地域包括ケアシステム構築に向けた在宅療養支援と地域看看連携強化を図る。 | 葛飾医療センター | 看護部 | 1. 訪問看護ステーションとの相互研修と地域との合同勉強会を開催する。 2. 地域に向けたスキルアップ研修(オープン講座)を開催する。 3. 認定看護師によるオープン講座を開催し、活動内容をアピールし、在宅同行訪問依頼、電話相談へとつなげる。 4. 地域包括ケアシステムの構築と推進のため、地域の看護職を主体とする連携構築プロジェクト「チーム第6医療圏(区东北部)」発足に向けた活動に参画する。 |
| | | ③地域の健康管理・健康増進に貢献する。 | 葛飾医療センター | 医療連携メディカルカンファレンス委員会 | 公開セミナー時に回収したアンケートの検証結果から、地域住民のニーズに適合したテーマを策定し、年3回の公開セミナーを開催する。 |
| (5) 診療重点機能を強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送数 H25: 3,532件 H26: 3,771件 H27: 3,737件 H28: 3,484件 H29: 3,419件 H30: 3,500件 ・手術件数 H25: 4,494件 H26: 4,519件 H27: 4,450件 H28: 4,855件 H29: 4,906件 H30: 4,800件 ・血液透析件数(1ベッドあたり) H25: 1.38回転 H26: 1.60回転 H27: 1.54回転 H28: 1.40回転 H29: 1.39回転 H30: 1.45回転 | ①プライマリーケア・ユニット(救急部・総合内科・小児科)の機能を強化する。 | 葛飾医療センター | 救急部 総合内科 小児科 | 1. PCU(プライマリーケアユニット)と専門外来の連携を推進し、救急受入れ体制を強化する。 2. 再編された救急病床を効率的に活用し、救急車応需率および救急患者数を増加させる。 3. 総合内科体制の再構築に向け、関連部署との協議を推進する。 |
| | | ②当初の計画通り、血液透析ベッドを拡張する。 | 葛飾医療センター | 病院運営会議 | 1. 血液透析室の増床後の安定稼働を図り、年間13,600件の透析を行う。 2. 認定看護師を継続配置し、透析看護の質的向上を図る。 |
| | | ③がん治療を重点化する。 | 葛飾医療センター | 病院運営会議 | 1. がん診療体制の維持、向上を図り、地域のがん診療に貢献する。 2. 放射線治療の稼働を推進する。 3. 乳がん看護ならびに緩和ケアの認定看護師により質的向上を図る。 |
| (6) 大規模災害に備える。 | | ①BCP(事業継続計画)を策定する。 | 葛飾医療センター | 管理課 | 大規模災害訓練などを介して、BCPの実効性の検証を継続する。 |
| | | ②被災地支援体制を構築する。 | 葛飾医療センター | 管理課 | 1. D-MAT訓練に参加し、隊員の技能維持に努める。 2. 葛飾区との総合防災訓練ならびに地元自治会との合同防災訓練に参加し、地域支援・連携体制を強化する。 |

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成30年度事業計画

| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
|---|--|---------------------------------|------|------------------|---|
| ●第三病院に関する目標 (1) 医療安全と感染対策の体制を強化する。 | | 医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。 | 第三病院 | 医療安全推進室・感染制御室 | <ol style="list-style-type: none"> 1. TeamSTEPPS研修の継続と内容の充実を図り現場での活用を促し良好なチーム医療を構築する。 2. 医療安全および感染対策研修会の未受講率を減少させる。 3. 中心静脈カテーテル認定医の育成と安全なCVC挿入のスキルアップを図る。 4. 患者情報の共有の促進により適正な治療が提供できるようにする。 5. 感染対策の基本技術向上の一環とし手指衛生指数15以上を維持する。 |
| (2) 総合医療サービスにより安心な医療と思いやりのある対応で地域に信頼される病院になる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送数 H25: 4,596件 H26: 3,984件 H27: 3,264件 H28: 3,589件 H29: 3,660件 H30: 3,600件 ・手術件数 H25: 5,757件 H26: 5,654件 H27: 6,121件 H28: 5,868件 H29: 5,862件 H30: 6,000件 ・病床稼働率(一般) H25: 84.0% H26: 83.6% H27: 83.8% H28: 83.6% H29: 83.5% H30: 84.7% ・紹介率(保険法) H25: 38.2% H26: 38.2% H27: 53.9% H28: 61.7% H29: 62.9% H30: 65.0% ・逆紹介率(保険法) H25: 18.6% H26: 34.1% H27: 42.4% H28: 44.3% H29: 42.5% H30: 40.0% | ①救急搬送患者の受入れを強化し、断らない救急を実現する。 | 第三病院 | 救急部管理課業務課 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 救急応需の連絡体制を点検し搬送連絡時間短縮策を講ずる。(特に休日・夜間の充実) 2. 救急応需率促進のため、ホットライン運用、救急ストップルールの再構築を行い、救急搬送数、救急患者数増加を図る。 3. 緊急入院患者の病棟への搬出時間の短縮を図る。 |
| | | ②手術室の運用改善により手術件数の増加と緊急手術に対応する。 | 第三病院 | 手術部管理課 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全かつ効率的に手術室を運用し、年間手術件数6,000件の達成と緊急手術を受入れる体制を整える。 2. 手術実施時間を開示し、効率的な手術室運用と術間インターバルの改善を行う。 3. 使用しない各科手術枠を事前に把握し、無駄の無い手術枠利用を行い、稼働率60%以上の維持を目標とする。 |
| | | ③がんの集学的治療を充実させる。 | 第三病院 | がん診療センター | <p>国指定の「地域がん診療連携拠点病院」認可に向けて、北多摩南部医療圏における拠点病院との連携・相乗効果の創出やがん教育拠点病院プロジェクトを推進する。</p> |
| | | ④東京都地域連携型認知症疾患医療センターの機能を拡充する。 | 第三病院 | 認知症疾患医療センター | <ol style="list-style-type: none"> 1. ホームページの充実等相談体制のさらなる強化。認知症サポーター養成講座の定期開催の実施。 2. 行政の取り組みとして粕江市が発足する認知症初期集中支援チームをサポートしていく。 |
| | | ⑤病床の運用を改善し、入院の必要性に応える。 | 第三病院 | 業務課看護部PFMタスクフォース | <ol style="list-style-type: none"> 1. 病床配分の継続的な検証を実施し、効率よい病床運用を図る。特に消化器疾患に特化した病棟や救急支援床(6床)の配置など新たな試みを行った病床の検証。 2. 退院予定オーダ発行率を80%以上とする。 |
| | | ⑥医療連携を強化し、紹介患者の増加を図る。在宅医療を推進する。 | 第三病院 | 総合医療支援センター運営委員会 | <p>新規開業医療機関や健診施設への訪問、web予約医療機関の拡大等を実施し、初診紹介患者の増患を図る。</p> |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 |
|-----------------------------|---|---|------|--------------------------------|---|
| 中 期 目 標 | 指 標 (平成30年度は目標値) | 中 期 計 画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
| | <p>・外来患者満足度 「次回も当院をご利用いただけますか」 H25：91% H26：92% H27：99% H28：92% H29：調査会社変更により質問項目の変更があったため評価できず</p> <p>・入院患者満足度 「あなたは家族や友人に当院への入院を勧めますか」 H25：84% H26：98% H27：98% H28：97% H29：調査会社変更により質問事項の変更があったため評価できず</p> | ⑦患者満足度の高い病院への改善を図る。 | 第三病院 | 患者サービス・ワーキング・グループ外 来病棟委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 院長巡視を行い院内の改善を行う。 2. 患者サービスワーキンググループを中心に、ホスピタリティー向上に努める。 3. 意見箱へ投函される声への迅速な対応を図る。 |
| (3) 新病院の基本構想、基本計画を策定する。 | | ①第三病院の将来像を見据え、附属4病院の機能連携を考えた新病院構想・計画を策定する。 | 第三病院 | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本構想を決定する。 2. リニューアルに向けて、ワーキンググループの設置や他病院の見学など実施する。 |
| | | ②大規模災害に備えた新病院構想を地域自治体と協力し策定する。 | 第三病院 | 管理課 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 調布・狛江市と救護所設置訓練を実施する。より現実的に即した訓練のあり方を地域で実施し、災害時に対応する。 2. 狛江市薬剤師会との連携による迅速な薬剤供給体制を構築する。 |
| (4) ICT技術の活用により医療の効率化を実現する。 | | 電子カルテを導入し、医療の効率化と医療データの有効利用を実現する。 | 第三病院 | システム課 業務課 第三病院HIS 委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1. データウェアハウスを活用し経営分析、臨床指標の作成を検討する。 2. 地域連携システムによる連携診療所への検査値などのカルテ情報の開示、カルテ監査システムの導入などによって、更なる医療の効率化・情報化を進める。 |
| (5) 大規模災害に備える。 | | ①BCP(事業継続計画)を策定する。 | 第三病院 | 管理課 | <ol style="list-style-type: none"> 1. BCPに係わる災害対策本部機能の見直し等の課題を計画的に解決する。 2. BCP計画を全般的に見直し、改定版を東京都に届ける。 |
| | | ②DMAT(災害派遣医療チーム)の機能維持に努める。 | 第三病院 | 救急部 管理課 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 新規隊員養成研修に申請する。 2. DMATと同形式の訓練(災害医療従事者研修)の募集があれば、同様に申請する。 3. DMAT隊の必要備品を点検し不足品を揃える。 |
| (6) 教育・研修の推進 | | 新しい専門医制度のもとで新設された「総合診療専門医」の基幹病院として、総合診療研修センターを運営する。 | 第三病院 | 総合診療研修センター 臨床研修センター | 院内外の講演会、勉強会を頻回に行い、センター機能を充実させる。総合診療専門医採用に向けた説明会の実施、採用活動を行う。 |

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成30年度事業計画

| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | 平成30年度事業計画 |
|------------------------------------|--|--|--|---|---|
| ●柏病院に関する目標 (1) 医療安全・感染対策の推進を図る。 | | 医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。 | 柏病院 | 医療安全推進室 感染対策室 | (医療安全関連) 1. TeamSTEPSの普及と有効な活用を図る。 2. 患者・家族への「説明と同意」の質を高める。 3. 侵襲性のある医療行為の安全性を向上する。 4. 「中心静脈カテーテル挿入に係わる認定制度」の普及と安全性の推進。 (感染対策関連) 1. 標準予防策、感染経路別予防策を徹底する。現場の自主的な持続的改善を推進する。 2. 医療関連感染防止対策を推進する。 3. 抗菌薬の適正使用を推進する。 4. 感染対策地域連携を強化する。地域の感染対策向上に貢献する。 |
| (2) 医療の標準化・効率化を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・レジメン登録件数 H25: 430件 H26: 470件 H27: 501件 H28: 581件 H29: 620件 H30: 600件 ・手術件数 H25: 7,839件 H26: 7,628件 H27: 7,673件 H28: 7,642件 H29: 7,960件 H30: 7,600件 ・クリニカルパス数(種類) H25: 14件 H26: 31件 H27: 62件 H28: 63件 H29: 87件 H30: 100件 ・院内褥瘡発生率 H25: 1.11% H26: 0.80% H27: 0.75% H28: 0.65% H29: 0.53% H30: 0.50% ・NST介入件数 H25: 443件 H26: 443件 H27: 444件 H28: 482件 H29: 595件 H30: 500件 | <ul style="list-style-type: none"> ①医療の質の向上と安全を確保する。 ②手術室の安全性の向上と効率化を図る。 ③DPCに対応したクリニカルパスの見直しを行う。 ④患者のためのチーム医療を推進する。 ⑤患者支援・医療連携センターの機能強化と患者相談・支援窓口(PFM)の充実により、病床の効率的な運用と医療の質の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 柏病院 柏病院 柏病院 柏病院 柏病院 柏病院 | <ul style="list-style-type: none"> 薬剤検討ワーキング・グループ 中央検査部 手術室・中材運営委員会 クリニカルパス委員会 緩和ケア小委員会 NST委員会 感染対策委員会 褥瘡対策委員会 患者サービス向上委員会 教職員研修委員会 外来・病棟委員会 業務課 患者支援・医療連携センター PFMワーキング・グループ | <ul style="list-style-type: none"> 1. 患者サービスと医療安全のため、院外処方せんの記載様式を見直し、検査値やQRコードを用いた薬剤情報の提供を検討する。 2. 検査の精度管理を行う。中央検査部システムを更新し安全性、利便性の向上を図る。また、診療に必要な検査項目を院内検査可能とする。 中央手術室の稼働率を維持しながら、緊急手術の受入体制を整備する。 1. 手術室ストップの低減を図る。 2. 外来手術センターの利用を推進する。 3. 土曜日手術実施を推進する。 1. DPCデータを活用し、既存クリニカルパスの見直しを行う。 2. 継続的にクリニカルパスの拡充を推進し、医療の効率化・標準化を図る。 各医療チームがそれぞれの指標において、前年度を上回る改善を図る。 接遇セミナー等各種研修会を開催するとともに、身だしなみなどのポスターを掲示し、具体的な注意喚起を行う。 電子カルテシステムを活用し、外来診療プロセスを可視化、改善を図る。 1. PFM機能強化により、病床の効率的運用を推進する。 2. 平均在院日数を13日台とする。 |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 |
|----------------------------------|---|-------------------------------------|------|-------------------|--|
| 中期目標 | 指標(平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
| (3) 地域中核病院として十分に機能する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・先進医療の承認および実施件数 H25: 3件24症例、新規承認0件 H26: 2件10症例、新規承認1件 H27: 2件5症例、新規承認0件 H28: 2件3症例、新規承認0件 H29: 2件5症例、新規承認0件 H30: 2件5症例、新規承認1件 ・紹介率(保険法) H25: 55.0% H26: 63.3% H27: 68.1% H28: 74.1% H29: 75.3% H30: 76.0% ・逆紹介率(保険法) H25: 36.7% H26: 48.5% H27: 49.7% H28: 54.9% H29: 58.2% H30: 58.5% | ①周産期センター化を検討する。 | 柏病院 | 病院運営会議 | 周産期検討ワーキンググループを中心に、未熟児室の拡充など、将来のNICU・GCUの設置につながるよう、周産期センター化に向けた環境整備等の検討を継続する。 |
| | | ②東葛北部医療圏が求める外来および入院機能の拡充、先進医療を推進する。 | 柏病院 | 病院運営会議 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 千葉県保健医療計画の見直しによる地域医療構想に応じた体制整備を行う。 2. 大学附属病院および地域中核病院として、先進医療を推進する。 |
| | | ③地域包括医療を推進する。 | 柏病院 | 医療連携委員会 | <p>PFM機能強化により、地域包括ケアシステムの中で急性期病院として貢献する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携医療機関の新規開拓と連携強化を図る。 2. 近隣の医師会、行政と連携し、地域包括医療を推進する。 3. web予約システムの機能拡大とシステム向上を図る。 |
| (4) がん診療連携拠点病院として必要な質の高い診療を実践する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・外来がん延患者数 H25: 75,000名 H26: 74,368名 H27: 72,047名 H28: 66,786名 H29: 78,110名 H30: 78,900名 ・入院がん延患者数 H25: 3,685名 H26: 3,764名 H27: 3,701名 H28: 3,973名 H29: 4,138名 H30: 4,180名 ・外来化学療法室延患者数(月平均) H25: 409名 H26: 455名 H27: 482名 H28: 545名 H29: 607名 H30: 610名 ・緩和ケアチーム介入数 H25: 95件 H26: 116件 H27: 139件 H28: 124件 H29: 207件 H30: 200件 ・がん地域連携バス数(種類) H25: 5 H26: 8 H27: 7 H28: 7 H29: 7 H30: 7 | がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備し、高度がん医療を提供する。 | 柏病院 | 地域がん診療連携拠点病院運営委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 国立がん研究センター東病院との協体制により、地域がん診療連携拠点病院としての役割や要件を確認し、がん診療のレベルアップにつなげる。 2. がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的苦痛等のスクリーニングを診断時から外来および病棟にて行い、がん患者の苦痛を迅速かつ適切に緩和する体制を強化する。 3. 緩和ケア研修会の受講率を向上させる。(がん診療を行う診療科医師90%、研修医・レジデント100%) 4. がん地域連携バスについては、バスの拡充、医療機関の拡大、対象となる患者の抽出方法の構築を進める。 5. がん患者に対する歯科診療の充実について検討を継続する。 |

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成30年度事業計画

| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | 平成30年度事業計画 |
|---------------------------------|--|---|------|---------------------|--|
| (5) 救命救急センターとしての診療体制および機能を強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送数 H25: 3,034件 H26: 4,246件 H27: 4,587件 H28: 4,808件 H29: 4,902件 H30: 4,900件 ・3次救急搬送件数 H25: 755件 H26: 881件 H27: 823件 H28: 942件 H29: 1,011件 H30: 1,000件 ・救急車で来院し、入院となった患者数 (救急医療入院のみ) H25: 1,514名 H26: 1,907名 H27: 2,413名 H28: 2,489名 H29: 2,420名 H30: 2,500名 | ①重症および複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を24時間体制で受入れる。 | 柏病院 | 救命救急センター運営委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 重症患者を救急部で受入れ、各科との連携を強化する。併せて、手術室およびICUの効率的な運用を図る。 2. 電子カルテシステムにおいてCPAや外傷(高エネルギー、重症、多発、熱傷)等の統計(集計)整備を行う。 3. 災害医療を鑑みラピッド・レスポンス・カー導入に向けた本格的な検討を進め、プレホスピタル医療体制の充実を図る。 |
| | | ②救急医療の臨床教育を充実させる。 | 柏病院 | 救急委員会 | 柏病院CPR教育委員会と連携して、各種救急医療関連コース(慈恵柏BLSコース、慈恵ICLSコース、気道管理(JAMP)コース、PBLSCコース)の開催を充実させる。 |
| (6) 収益の向上を図る。 | | 収益月次報告により、予算に対する執行額および収支バランスを把握し、収益目標額を達成する。 ・医療経費(特殊材料費、消耗品費等)の削減 ・原価率 ・診療単価と手術単価 | 柏病院 | 病院運営会議 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療経費削減の取組として、医材・物流ワーキンググループでの共同購入品の活用、SPD業者の4機関統一によるスケールメリットを生かした価格交渉を実施する。 2. 定数配置品の適正化により過剰在庫や休日前の過剰な取り込みを抑制し適正な使用量となるよう調整する。 |
| | | | 柏病院 | 病院運営会議 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 有差額床の改修を計画、実施する。 2. 画像診断機器、手術機器の適正配置を計画する。 |
| (7) 災害拠点病院としての体制を整備する。 | | ①DMAT(災害派遣医療チーム)の体制を強化する。 | 柏病院 | DMAT創設ワーキンググループ | 各種訓練への積極的な参加、資機材、装備品の整備を行い、災害発生時の派遣に備える。隊員養成研修(CLDMAT含む)を各職種に周知し、院内におけるDMAT隊員の確保に努める。 |
| | | ②災害拠点病院としてBCP(事業継続計画)を策定する。 | 柏病院 | 防火災害対策委員会 病院運営会議 | 当院のBCP(事業継続計画)について更なる見直しを行うとともに、それに基づいた訓練を実施する(災害拠点病院は2019年3月までにBCP策定が義務づけられている)。 |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 |
|--|---|----------------------------------|----------|-----------------------------|--|
| 中 期 目 標 | 指 標 (平成30年度は目標値) | 中 期 計 画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
| II. 法人運営の改善および効率化に関する目標 1. 運営体制の改善に関する目標 ・内部統制の強化を図る。 ・理事会機能の更なる充実を図る。 ・法令遵守の徹底を図る。 ・法人運営の総合的計画立案機能を強化する。 ・個人情報管理を徹底する。 ・広報活動を充実する。 | ・申請過誤件数 H25：0件 H26：0件 H27：0件 H28：0件 H29：0件 H30：0件 ・科学研究費不適切使用 H25：5件 H26：0件 H27：0件 H28：0件 H29：0件 H30：0件 | ①寄附行為ならびに関連規程を検証する。 | 総務課 | | ガバナンスの観点から検証し、結果を関連規程に反映させる。 |
| | | ②法令遵守と内部統制を強化するため、内部監査の充実を図る。 | 監査室 | | 法令および学内規程に基づいて業務が行われているか点検し、法人の適正な運営を支援する。 |
| | | ③法令遵守の徹底を図る。 | 総務課 | | 1. 規程表記の統一を図り、点検および提言を継続して行う。 2. 文書管理方法について検討し、実行する。 |
| | | ④個人情報保護の重要性を認識し、教育・指導を行う。 | 人事課 | | 各階層研修において行動規範などを継続的に周知する。 |
| | | ⑤本学の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)を学内外に発信する。 | 総務課 | | 1. 個人情報保護に関する研修会を、4機関合同で年1回開催する。 2. 個人情報保護について、オールユーザーメールで年2回以上配信し注意喚起する。 |
| | | | 広報課 | 広報課/大学広報委員会/広報課/大学ホームページ委員会 | 1. 広報素材収集をシステム化し、情報を自ら創出するとともに、情報発信量の量的拡大を図る。 2. あらゆる広報機会で露出する慈恵大学のイメージを代表させるVI(ビジュアル・アイデンティティ=ロゴマーク・シンボルマーク)を構築する。 3. 附属病院ホームページのリニューアル作業の継続および本院以外のホームページ改定に向けた準備を進める。 |
| | | | 学術情報センター | | 教育・研究年報やResearch Activitiesの発刊、教員評価システム(researchmapとの連携を含む)、学術リポジトリ、大学ホームページの活用により、本学の教育・研究業績、歴史に関する情報を発信する。 |
| 2. 人材確保・育成・活用に関する目標 ・人材育成のための教育制度を構築する。 ・職場環境を整備し、教職員の満足度を向上する。 ・業務の効率化を図り人件費を最適化する。 | ・教職員アンケートにおける満足度 H25：53.9% H26：51.3% H27：54.6% H28：51.1% H29：47.0% H30：50.0% ・教員・医師の退職者数 H25：115名 H26：119名 H27：147名 H28：134名 H29：135名 H30：130名 | ①職員の人材育成制度を強化する。 | 人事課 | 職員研修委員会 | 新人の研修内容を強化する。 |
| | | ②人材の有効活用のための評価方法を検証する。 | 経営企画部 | 医療マネジメント講座運営委員会 | 医療マネジメント講座を開講し、医療マネジメントスキルの高い人材を育成する。 |
| | | ③教職員の満足度を向上させ教職員の定着率を高める。 | 人事課 | 経営企画部 | 人事考課者訓練および人事考課のスキルアップを図る。 |
| | | | 給与厚生課 | | 有給休暇の取得推進を図る。 |
| | | | 教員・医師人事室 | | ストレスチェック受検結果2年分(平成28年度、平成29年度)を基に集団分析を行い、職場環境の改善方法について人事課、教員・医師人事室と協力し対策を講じる。 1. 医師の復職支援(育児・病欠後)として、週0.5日から医師として附属病院で勤務できる体制を整備する。 2. 健診部門における医師の勤務可能年齢を引き上げる。 |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 |
|--|--|---|---|--|--|
| 中期目標 | 指標(平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 看護要員確保率 H25:100% H26:100% H27:103% H28:100% H29:100% H30:100% 看護師離職率(附属4病院) H25:12.2% H26:11.8% H27:10.8% H28:11.3% H29:13.8% H30:12.0% | <p>④看護師の安定確保を図る。</p> <p>⑤労働生産性を向上させる。</p> | <p>人事課 ナース就職支援室</p> <p>看護部</p> <p>人事課</p> <p>教員・医師人事室 人事課</p> | | <p>1. 良質な人材を確保する。</p> <p>2. 新外来棟および新病院オープンに向け必要数を確保する。</p> <p>3. 年間安定した看護師数を配置するため中途採用を実施する。</p> <p>新病院開院、診療報酬改定、病院機能の変遷を念頭に置きつつ、人事課・ナース就職支援室と協働し、安定確保に取り組む。</p> <p>1. 過去の活動の評価・検証をする。</p> <p>2. 電子カルテ導入、新外来棟建築などの内部環境、外部環境の変化に対応した要員配置を策定する。</p> <p>全職種が変形労働時間等、柔軟な活用を図る。</p> |
| <p>3. 事務の効率化・合理化に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT導入による効率化を実現する。 各部門間が有機的に連携する。 | | <p>①適正なICTの活用により事務の効率化を図る。</p> <p>②経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行えるよう情報提供をする。</p> <p>③各部門間の連携と相互補完体制を検討する。</p> | <p>システム課</p> <p>経営企画部</p> <p>人事課</p> | <p>情報システム統括委員会 情報システム運営会議</p> <p>経営企画部</p> | <p>1. データウェアハウスによるベンチマークを附属4病院間で行う。</p> <p>2. 研究・経営支援に必要な指標を整理する。</p> <p>病院経営や機能に関するQIを含むビックデータを経営企画部に一元できるようなシステムを考案する。DPC別の収入状況を確立した段階で、疾病別原価を踏まえた管理会計に係わる土台を構築する。</p> <p>各部門間連携を深めるために、部署間の協働促進に向けて方策を検討する。</p> |
| <p>Ⅲ. 財務の改善に関する目標</p> <p>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定した経営基盤を確立する。 経営改善が必要な重要項目について具体的な改善対策を推進する。 経常費補助金・科学研究費補助金の獲得・増加に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> 経常費補助金の獲得額 H25:35.3億円 H26:33.0億円 H27:33.5億円 H28:33.1億円 H29:31.7億円 H30:30.4億円 収支差額予算達成率 H25:148.6% H26:98.1% H27:114.8% H28:108.8% H29:109.6% H30:100% 大型プロジェクト研究事業件数 H25:5 H26:5 H27:4 H28:3 H29:2 H30:1 | <p>①効率的かつ適切な予算管理の仕組みを策定し、予算実績管理体制を強化する。</p> <p>②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。</p> | <p>経理課</p> <p>経営企画部</p> <p>経営企画部</p> | <p>理事会 財務部</p> | <p>予算対実績比較を行い、乖離の大きい科目・部署については、要因を調査・分析し、適正な予算申請および執行となるよう該当部署に指導する。</p> <p>附属4病院のDPCベンチマークを通じて、最も効率の良い標準診療プロセスを確立し、ベストプラクティスの入院収入を予算に反映した場合に、現行予算との比較において病院経営に与える影響と課題、対応策を提案する。</p> <p>1. 産学連携を推進し、新たな事業開拓を構築する。</p> <p>2. コストマネジメント・プロジェクトなどを通じて引き続き経費削減対策を実施する。</p> |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 |
|--------------------------|--|--|-------|----------------------------|---|
| 中期目標 | 指標(平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
| | | ③ 本学の補助金獲得内容を分析し、増加のための対策を推進する。 | 研究支援課 | 大型プロジェクト対策委員会 教育研究助成委員会 | 1. 昨年度に引き続き、私立大学研究ブランディング事業の採択を目指す。 2. 経常費補助金申請に係わる根拠資料を整理する。 3. 改革総合支援事業に応募し、1項目以上の採択を目指す。 |
| | | ④ 補助金(公的研究費、私立大学等経常費補助金等)に係る管理体制を充実する。 | 研究支援課 | 教育研究助成委員会 | 1. 関係課と協力してチェックリストを有効利用することで適正な管理体制を継続し、補助金獲得を推進する。 2. 補助金交付に係わる諸条件に関する解釈に疑問が生じる場合には、私学事業団に相談することで適正な根拠資料を整備し、正確な補助金申請を推進する。 |
| 2. 経費の抑制に関する目標 | <ul style="list-style-type: none"> 経費削減と効率化を図り、堅調な財政基盤を構築する。 物流の効率化、一括購入等を推進する。 各種資源の消費を削減する。 ICT関連経費の適正化を図る。 | ① 医療経費の抑制を図る。 | 施設課 | コストマネジメント・プロジェクト | 1. 医材・物流ワーキンググループによる附属4病院共同購入を推進し効果を検証する。 2. コストマネジメント・プロジェクトを中心とした経費削減活動を継続する。 |
| | | | 経営企画部 | | 業務委託契約における仕様書の見直しや、相見積による現行の委託契約額の適正化を図る。 |
| | | ② ICTの適正導入と評価を行う。 | 薬剤部 | | 後発医薬品の数量シェア80%を維持する。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 医療経費率 H25: 34.7% H26: 35.2% H27: 36.0% H28: 36.6% H29: 37.1% H30(予算): 36.8% 東京都温室効果ガス排出総量削減率(東京都削減目標) H25～H26年度 平均8%削減 H27～H31年度 平均13%削減 (本院) H25: 9.3%削減 H26: 9.5%削減 H27: 10.7%削減 H28: 9.3%削減 H29: 8.8%削減 H30: 10.0%削減 (葛飾医療センター) H25: 21.7%削減 H26: 25.5%削減 H27: 23.9%削減 H28: 21.3%削減 H29: 20.6%削減 H30: 18.0%削減 (第三病院) H25: 22.0%削減 H26: 20.0%削減 H27: 23.6%削減 H28: 30.4%削減 H29: 29.5%削減 H30: 20.0%削減 (柏病院) H25: 8.9%削減 H26: 2.1%増加 H27: 1.0%削減 H28: 0.8%削減 H29: 0.3%増加 H30: 0.8%削減 | | システム課 | 情報システム統括委員会 情報システム運営会議 | 1. 大学・全附属病院の情報システム経費適正化を図る。 2. 新病院・新外来棟竣工に向けたシステム導入計画を立案する。 |

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成30年度事業計画

| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | | |
|--|---|---------------------------------------|------------|---------------------|--|---|
| 3. 資産の運用管理の改善に関する目標 ・全学的かつ経営的視野に立った資産の効率的な運用を図る。 ・適正な資金運用を促進する。 | | ①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。 | 施設課 | | 西新橋キャンパス再整備計画に連動した各棟設備修繕計画を策定し、実行にあたっては外来および病棟運用の支障が生じることのないように各部署との連携強化に努める。 | |
| | | ②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。 | 施設課 | | 新病院・新外来棟のオープンに向けて平成31年度の年度予算、西新橋再整備計画予算で購入する機器が多く見込まれるため、関係部署と密に連携を取り予算化の重複や不足がないように努める。 | |
| IV. その他事業運営に関する重要目標 1. 本院新外来棟建築に関する目標 ・本院新外来棟の建築 | | ①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。 | 西新橋再整備準備室 | 西新橋建築準備委員会 | 平成30年10月新病院(健診センター)竣工・平成31年1月健診センター開院に向けて遅延なく進める。 | |
| | | ②西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟を含むハード計画を実現する。 | 西新橋再整備準備室 | 西新橋建築準備委員会 | 1. 新外来棟の施工を遅延なく進める。 2. 平成31年1月健診センター開院を目指し具体的な移転スケジュール策定し実現させる。 3. 中央棟・E棟その他の改修のための基本設計および詳細設計計画を策定し詳細設計を進める。 4. 大学本館建替計画に着手する。 | |
| | | ③本院の再整備計画を策定する。 | 病院事務部 | 新外来棟基本計画に関する病院幹部検討会 | 1. 着工後ヒアリング実施による設備等の詳細設計。 2. 医療機器・仕器等のヒアリング。 3. 運用フローの検討。 | |
| 2. 大学マスタープランの策定に関する目標 ・明確な長期マスタープランを策定する。 | | 教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。 | 経営企画部 | マスタープラン懇談会 | 1. 慈恵大学100年記念事業委員会答申について継続的に検証する。 2. マスタープラン懇談会において、地域医療構想における附属4病院のポジョニングを明確にする。 | |
| 3. 創立130年記念事業に関する目標 ・130年記念事業を実施する。 ・事業実現に必要な寄付金を確保する。 | ・記念事業募金額 H25：11.0億円 H26：12.4億円 H27：13.8億円 H28：15.1億円 H29：16.3億円 H30：20.0億円 | ①記念事業「本院新外来棟建築を主とした西新橋キャンパス再整備」を実施する。 | 西新橋再整備準備室 | | 1. 新外来棟は平成30年1月に着工後、設計施工を遅延なく進める。 2. 新病院2階の健診センター具体的な運用を策定し、オープンする。 3. 中央棟・E棟その他の改修のための基本設計および詳細設計計画を策定する。 4. 大学本館建て替えまでの西新橋キャンパス再整備計画案作成に着手する。 | |
| | | | | 法人事務局 | | 創立140年に向けての事業内容について検討を行う。 |
| | | ②記念事業に必要な寄付金を募集する。 | 財務部(募金事務局) | | | 記念事業募金の募集期限(平成30年9月末)までに目標の20億円を募集する。 このために、教職員、OB、協力企業への声掛けを行う。 |

| 中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度) | | | | | 平成30年度事業計画 |
|---|---|-----------------------------------|----------|--|---|
| 中期目標 | 指標 (平成30年度は目標値) | 中期計画 | 主体部署 | 関連部署・委員会等 | |
| 4. 大規模災害時の対応に関する目標 ・大規模災害発生時の体制を構築する。 ・BCP(事業継続計画)を策定する。 | ・本学全建物の耐震基準充足率 H25: 85% H26: 95% H27: 95% H28: 95% H29: 95% H30: 95% | ①大規模災害時の体制を強化する。 | 総務課 | 総務課 人事課 システム課 施設課 管理課 他 | 1. 新病院(仮称)竣工に伴う災害対策を整備し周知する。 2. みなと保健所や港区三師会、消防署、近隣町内会等と協力して災害対策訓練を実施する。 |
| | | ②被災地への支援体制を構築する。 | 管理課 | 防火防災対策委員会 | 新外来棟ならびに新病院に適應するBCP策定を開始する。 大学の防災対策・BCP対策のブラッシュアップを行う。 夜間・休日中の災害発生時に職員の出勤が困難な場合、当直体制における設備関連委託業者の能動的対応がスムーズに実行されるよう、現状の緊急連絡体制に不都合や過不足がないか精査を図る。 |
| 5. 葛飾医療センター開設後の評価に関する目標 | | 新病院建設後の投資効果や初期目標の達成度などの全体的な評価を行う。 | 葛飾医療センター | 経営企画部 | 新病院開設後の全体的な評価を確認し、今後の改善計画や事業計画などに反映させる。 |